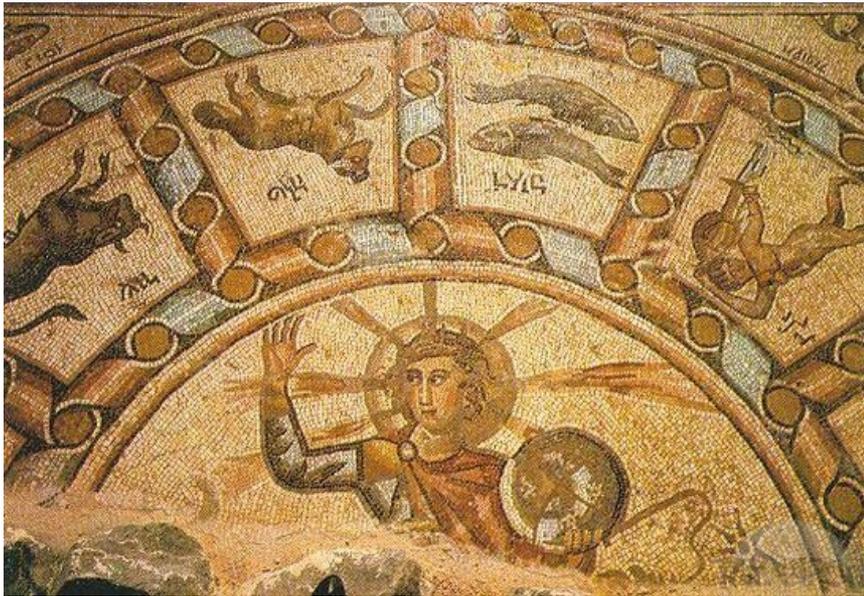




PDFの使い方:

- Ctrl + Lで全画面表示。
- ↑↓キーでページを移動。
- Escで終了。



## 聖書の起源

JW解約⑨ by 真理 真 2015/05  
『ドアの向こうのカルト』で検索

皆様へご挨拶(これっつきりですか、これっつきりですか～！)



『ドアの向こうのカルト』の著者です。実はここにある資料は数年間眠っていたものです。ドアカルの反響を受けて、出版社から二冊目をというオファーがきたのでひさしぶりに資料を引っ張り出してきて原稿を書きました。しかし内容があまりにもマニアックであったため、お互い売れないであろうということで原稿をお蔵入りにしました。また私自身が完全に宗教と聖書に興味を失ってしまったので、いちいち関わることもないだろうという思いもありました。とはいえ、これらの資料をただ寝かせておくのももったいないので、どなたかの役に立つだろうと思い、最後の置き土産としておいていきます。

ネットで元Jの方々の議論を見たことがありますが、聖書の呪縛から抜けられない方が多いなと思いました。宗教は抜けても、聖書の解釈や真偽について議論している間は結局宗教の呪縛から逃れられていないのです。よって聖書そのものを清算しないかぎり、カルト体験を清算することはできないでしょう。しかし、聖書が一体何かということを知るのは大変難しいです。なぜなら真実は長い時間と断片的な記録の中に埋もれているからです。神学の中でも答えが出ておらず常に議論の対象になっています。

しかしそれも当たり前の話で、誰であれ数千年前の状況や経緯をはっきりと知りえる人なんていないのです。わずか100年前の歴史的事件ですら解明されていないことが多いのに、数千年前のネタの真偽の議論をしても意味がないのです。キリスト教はそれより前の異教徒の密教の神話をユダヤ人向けにパッケージしたものです。さらにそれをローマ帝国がパウロという架空の哲学者を軸にグローバル向けにリパッケージしました。

一言でいうと、聖書はその時代の霊能者が書いたスピリチュアル本を断片的に集めたものです。それをその時の指導者(ユダヤ人であれ、ローマ帝国であれ)が政治的に自分たちの優越感を助長するために脚色・編集しなおしたものです。だから純粹に人の心を打つ言葉もあれば、政治的な意図をもって歪められた教えも混ざっています。ただ、その本が分厚かったからゆえにちょっと偉い本だと勘違いされているだけです。

宗教の起源は占星術と霊能にあります。聖書も例外なくこの二つを土台にしています。当時は「神話」という概念のうえで成り立っていました。しかし16世紀以降に真面目なドイツ人が聖書を物語でなく「史実」であると解釈しようとした。これが18世紀にアメリカで起こった原理主義運動につながり、エホバの証人を含めたたくさんのカルト教団が生み出されました。

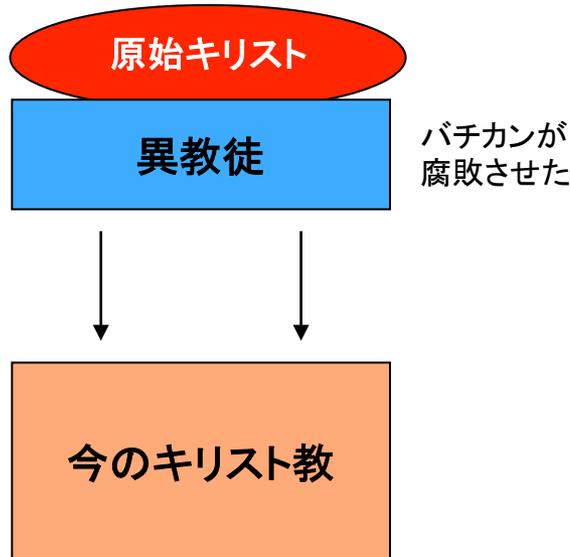
ここにある資料は未完成のようですが、何かのヒントになれば幸いです。これをもって私のJW時代と完全に決別します。皆様にも新しい道が開けますように。

**真理真** 5月2015年(ちょうど9年前の5月に覚醒しました)

最大の皮肉： バチカンを批判する原理主義者は  
バチカンが創ったカゴの中で叫んでいるに過ぎない。

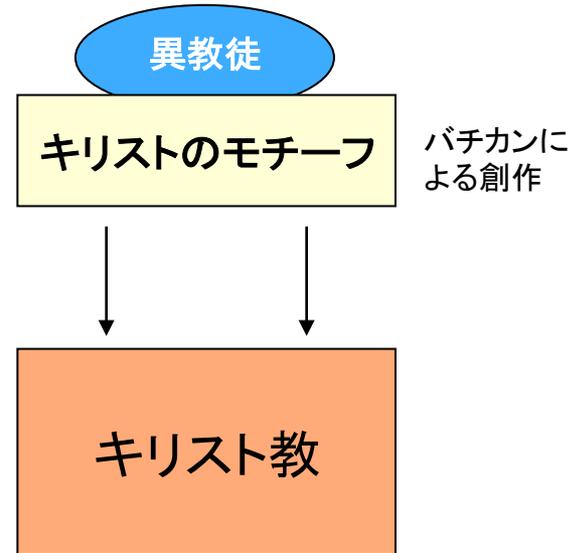
## 原理主義者の主張

時間とともにバチカンが異教徒の  
宗教をキリスト教に取り入れて  
汚染してしまったので、バビロンの  
教えを取り除く必要がある。



## 実際の歴史

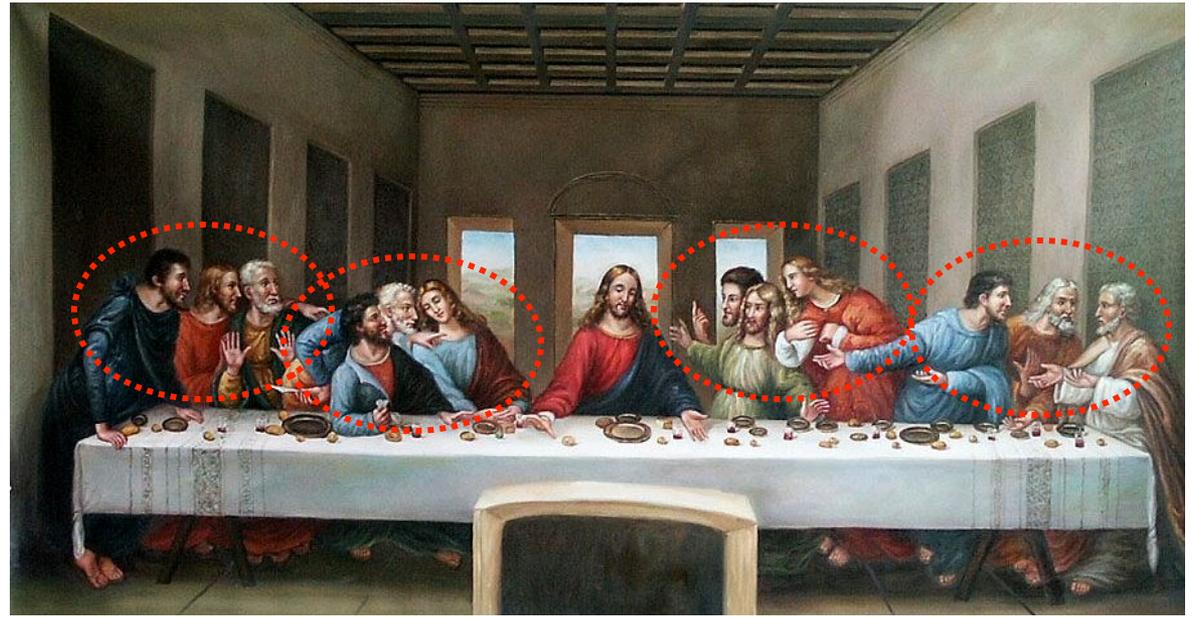
古代密教の神話の上にバチカン  
がキリストの神話を創作してのせ  
ただけである。



キリスト教原理主義者はバチカンが取り入れた異教徒のものを取り除くべきだと主張する。しかし実際には異教徒の宗教の上にバチカンがキリスト神話を取り入れただけである。原理主義者はバチカンが付け足した部分を削除しようという。しかし実際にはカトリックの付け足した部分を擁護しているに過ぎない。バチカンがなければ今頃キリスト教そのものが存在しえなかつただろう。



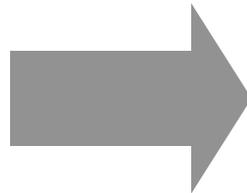
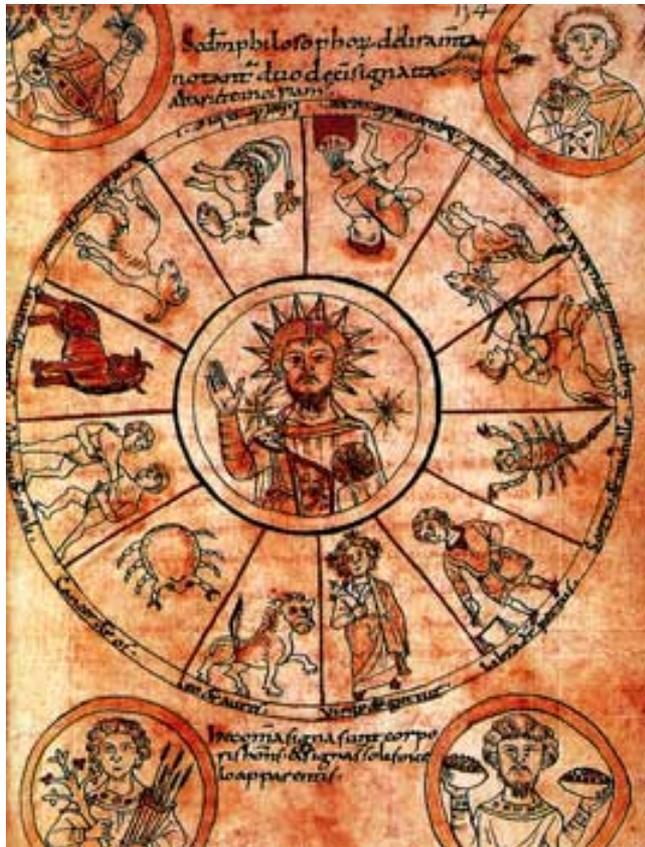
三ヶ月x4グループに別れている  
イエスの弟子



# 古代宗教の融合の産物

# 12星座とイエスの12弟子

キリスト教が形成される初期時代において  
初期のイエスはしばしば太陽の象徴として  
12星座に囲まれて描かれていた。



# 太陽と季節を表す普遍のシンボル

古代から一年のサイクルと季節を表すシンボルは神聖なものとしてきた。



Miniature zodiac, with Helios (Sun) as Christ in his solar chariot drawn by four horses, surrounded by the apostles, corresponding to the zodiacal signs; 813-820 AD/CE; Vaticanus graecus 1291

8世紀に描かれている星座とイエスの図。  
バチカンの資料



マヤ文明



12星座



ケルト民族



イエス神話の起源といわれているミトラス。ミトラ教はキリスト教が広まる前からローマにおいて広く信望されていた。ミトラはイエスと同じく太陽神とされ12の星座によって囲まれている。イエスと同じくクリスマスに生まれて十字架によって死刑となっている。パンとぶどう酒の神であったという点も興味深い。

## 聖書に出てくる太陽と神の関係:

- ヨシュアは太陽を止めた。ヒンズー教のインド神話のクリシュナも太陽を止めたといわれている。
- 詩篇84:11 神エホバは太陽, また, 盾であり,
- 詩篇68:33 古からの天の天に乗り進まれる方

キリスト神話はそれ以前の宗教神話を混合的に混ぜたものである。

## ディオニューソス

ゼウスの子でパンとぶどう酒の神であった。酔っ払い踊る儀式が特徴で、イエスの「笛を吹いたけれど踊らない」の由来でもあるかもしれない。古代からの農業の神の特徴として「死と再生」の神であり、殺されて復活している。これは一年の農作物のサイクルと関係している。

ディオニューソスで検索

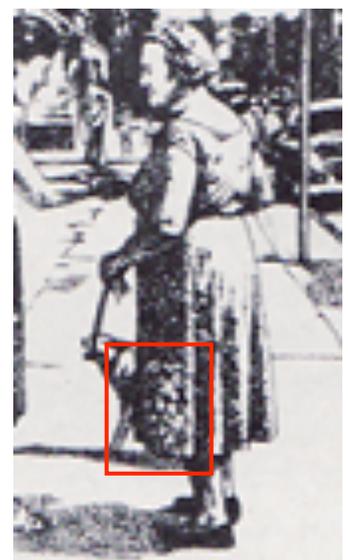
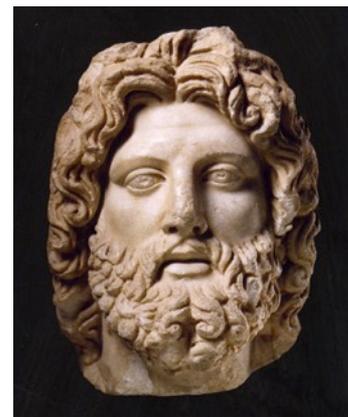
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%87%E3%82%A3%E3%82%AA%E3%83%8B%E3%83%A5%E3%83%BC%E3%82%BD%E3%82%B9>



# 宗教の融合は頻繁に行われていた

ユダヤ教とローマのミトラス教が融合されてキリスト教が生まれた。同じく、アレキサンダーによるヘレニズム文化時代の4世紀にエジプトとギリシャの宗教が融合された。文化の融合は宗教の融合をも生み出す。

キリスト教は12星座に根ざしていたため、2世紀のローマ皇帝であるハドリアンはクリスチャンはギリシャの神であるセラピスと占星術を信仰していると思っていたほどだ。

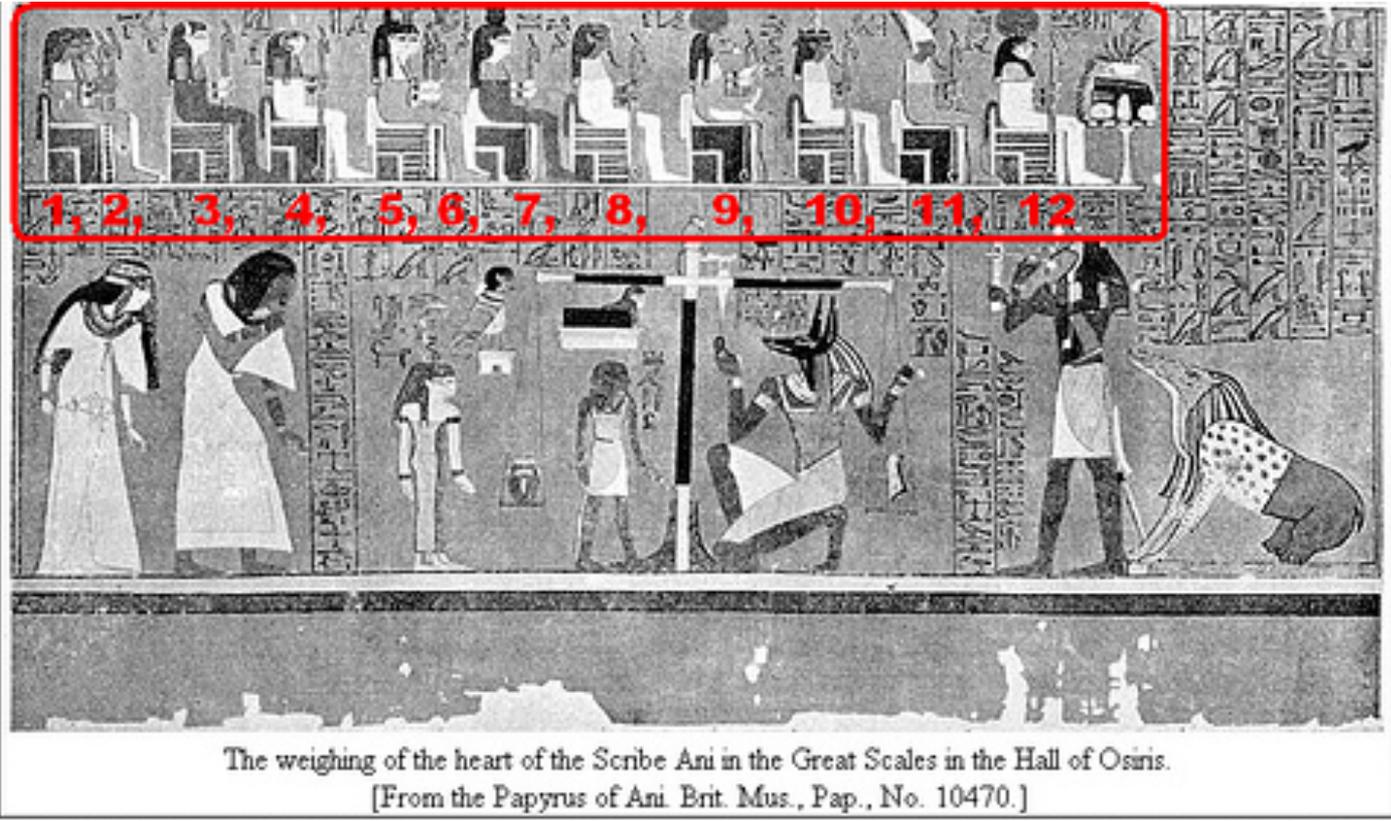


アレクサンドリアの初期のキリスト教はセラピスとイエスを混合して礼拝し、両者を差別なく崇拝していた。『ローマ皇帝群像』にあるハドリアヌス帝のものとする書簡には、エジプトでキリスト教徒を自称する人々がセラピスを崇拝していることやセラピス信仰と称したキリスト教信仰など、信仰や慣習の大きな混乱があることを記している。

興味深いことに出版物の隠し絵にも登場

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BB%E3%83%A9%E3%83%94%E3%82%B9>

<http://www.booktalk.org/post96429.html>



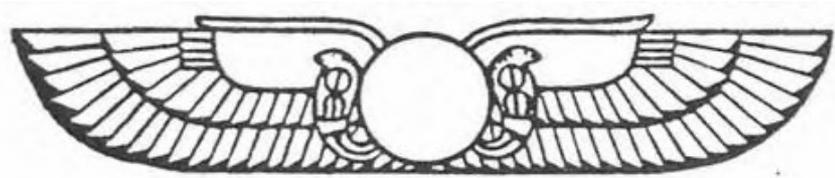
ホルスの12弟子

In great papyri of the Book of the Dead such as those of Nebseru, Nu, Ani, Hunefer, etc., the Last Judgment, or the "Great Reckoning," is made the most prominent scene in the whole work, and the vignette in which it is depicted is several feet long. The most complete form of it is given in the Papyrus of Ani, and may be thus described: At one end of the Hall of Maati Osiris is seated on a throne within a shrine made in the form of a funerary coffer, behind him stand Isis and Nephthys. Along one side of the Hall are seated the gods Harmachis, Tem, Shu, Tefnut, Geb, Nut, Isis and Nephthys, Horus, Hathor, Hu and Saa, who are to serve as the divine jury, these formed the "Great Company of the Gods" of Anu (Heliopolis). By these stands the Great Balance, and on its pillar sits the dog-headed ape Astes, or Astenu, the associate of Thoth. The pointer of the Balance is in the charge of Anpu. Behind Anpu are Thoth the scribe of the gods, and the monster Amemat, with the head of a crocodile, the forepaws and shoulders of a lion, and the hindquarters of a hippopotamus; the duty of the last-named was to eat up the hearts

Horus, 12 disciples

マラキ4:1

わたしの名を恐れるあなた方には、義の太陽が必ず照り輝き、その翼にはいやしが伴う。



『主はアロンに向かって、「さあ、荒れ野へ行って、モーセに会いなさい」と命じられたので、彼は出かけて行き、神の山でモーセと会い、口づけした。』 出エジプト4:27

この地帯には山はない。またシナイ山でもないのでエジプト内の神の山に該当するのはピラミッドである。

割礼の習慣はユダヤ人がエジプトから持ち出したものである。エホバがユダヤ人だけに与えたしるしではない。

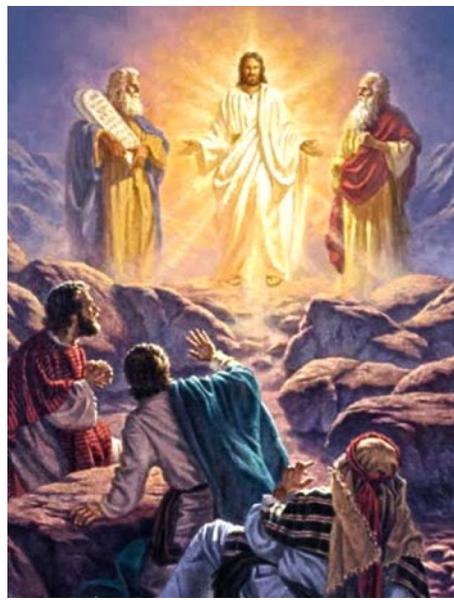
## オシリスとホルスがモチーフとなっているマリアとイエス

<http://stellarhousepublishing.com/jesussunexcerpt.html>

one of the old Coptic spells to remove pains of childbirth and the stomach was "Jesus! Horus!" or just simply "Jesus Horus!" (Murdock, CIE, 297.)



## 太陽神としてのキリスト



イエスの姿が彼らの目の前で変わり、顔は太陽のように輝き、服は光のように白くなった。マタイ17:2

変貌の時のイエスとモーセとエリヤの三人は太陽と関係づけられている。

- イエスは世を照らすものとして描かれている。荒野に40日こもる。
- ギリシャ神話ヘリオス 太陽神で馬車にのって天を飛んでいた。**エリヤ**も火の戦車にのっていた。エリヤも40日ホレブ山にこもる。
- モーセ**も同じく40日シナイ山にこもっていて、帰ってきた時には顔が光っていた。



# イエスの復活が三日間である理由

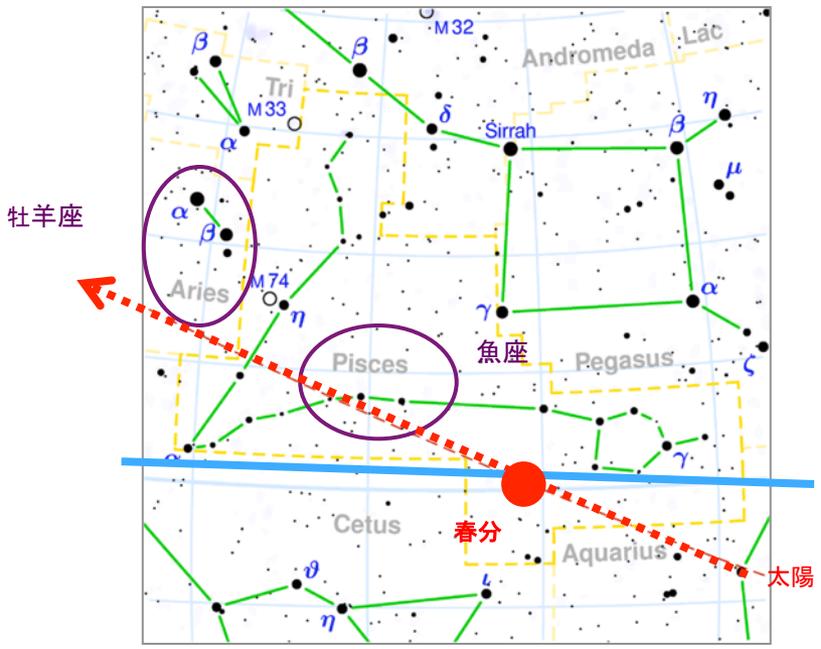
イエスもヨナも三日間暗闇にいた理由は太陽の動きと関係がある。12月22日は冬至であり太陽が死ぬ。その後目測上3日間太陽の南下が止まり南十字星と太陽の位置が並ぶ。これは太陽神ホルスの十字架の刑による死と復活を意味していると考えられている。十字架と太陽の復活はこの起源はここにある。



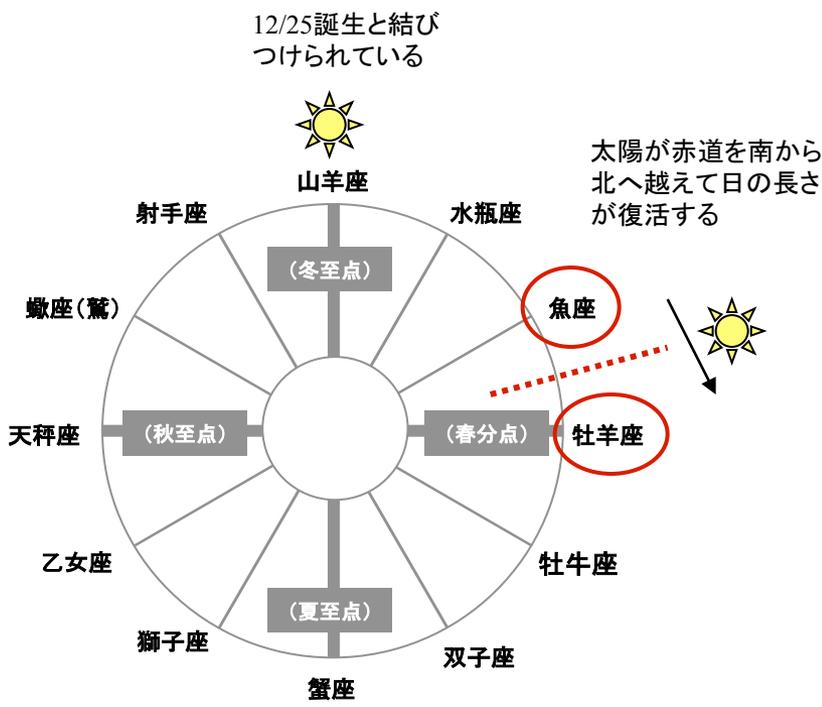
日本にも天照大神(太陽)が天岩戸に隠れて世界が闇になったという神話がある。イエスが死んだ時も暗闇になっており、岩の墓から復活してきている。

# イエスの犠牲と復活は太陽の春分点を表している

- もしキリストが文字通り復活した日にちがあるのであれば、毎年日没の変化に合わせて日程を変える必要はない。毎年記念日が変動するのは太陽の動きに沿った祭りが起源となっているからである。
- 日の長さが夜より長くなる春分点が太陽の復活とされた。そのためキリスト教以前の宗教はこの日を復活祭としていた。アメリカで祝われる兎と卵の異教徒由来の復活祭とキリストの復活祭が同じなのは偶然ではない。
- 春分点の際に太陽は羊座から魚座を横切る。そのため、羊が犠牲にされていた。つまり子羊として象徴されているキリストはこの時期に生贄にされて春分点に復活した。



**春分点**(しゅんぶんてん、英: vernal equinox)とは、黄道と天の赤道との2つの交点(分点)のうち、黄道が南から北へ交わる方の点(昇交点)のこと。この点が赤経0度かつ黄経0度であり、この点を太陽が通過する瞬間が春分となる。うお座(水色の網目の交点と赤い破線との交点)が春分点)



# バプテストのヨハネの起源

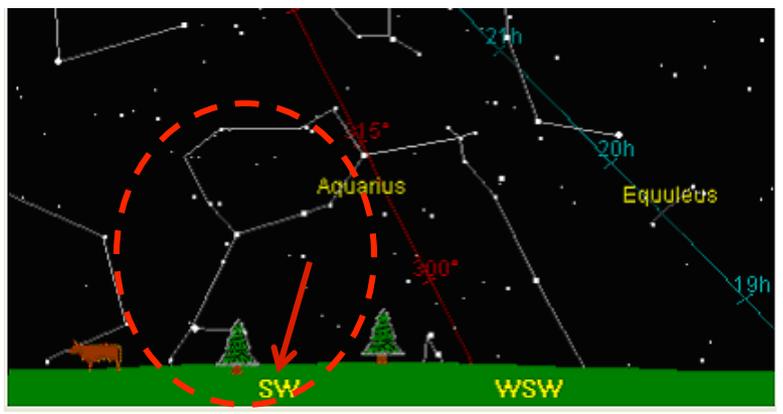
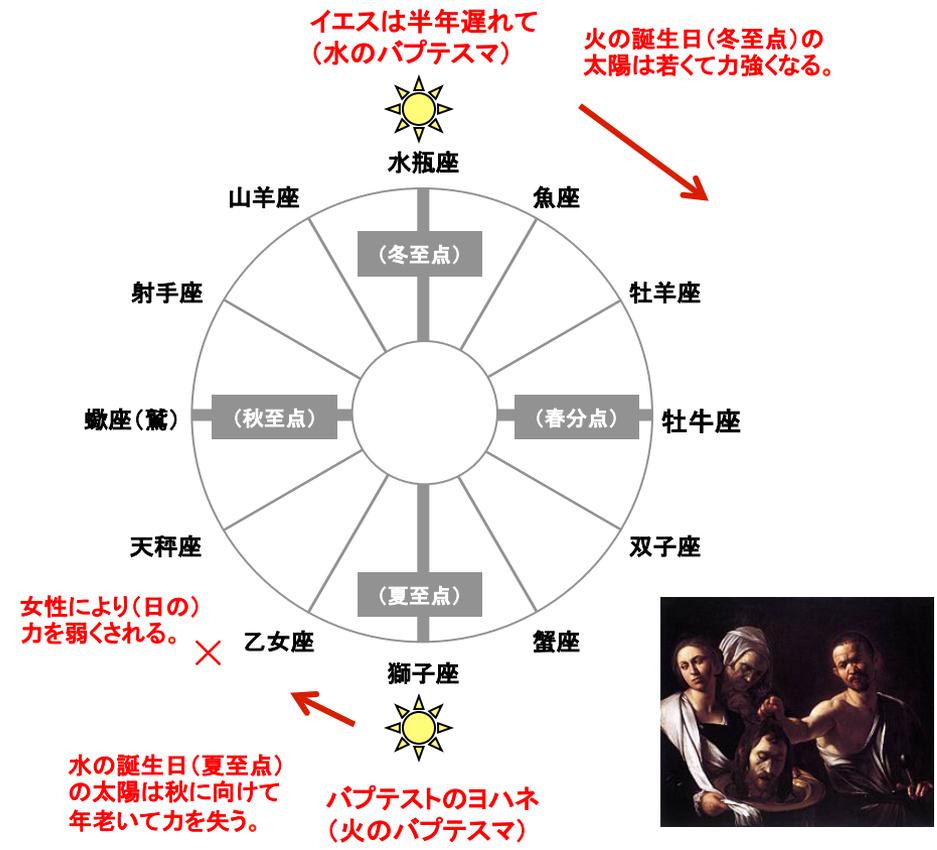
- バプテストのヨハネはイエスが現れる半年前に現れる。伝統的には6/24日の誕生日となっている。
- ヨハネはお産の時期を過ぎた女性から。イエスは処女から生まれている。両方とも奇跡的な誕生で共通している。
- ヨハネは私より「若くて偉大な者」がくるという。実際に夏至点の太陽は弱く老いるだけで、冬至点の太陽は今から成長する若い太陽である。
- ヨハネもサムソン同様に女性(乙女座)がトラブルの原因になっている。乙女座の秋に入り太陽の力が弱くなるため。



## ヨハネが頭を切られる理由

ホルスはエジプトで太陽の神。オシリスとイシスの子。ホルスは洗礼者アヌビス(アナプ Anap/Anubis)と兄弟関係にあった。頭を切り落とされている。

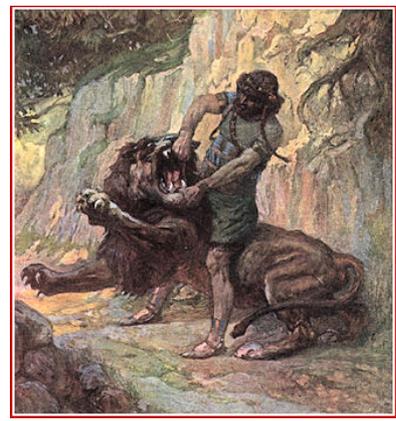
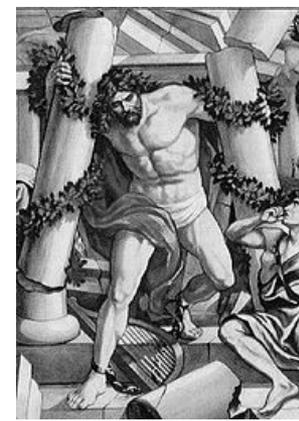
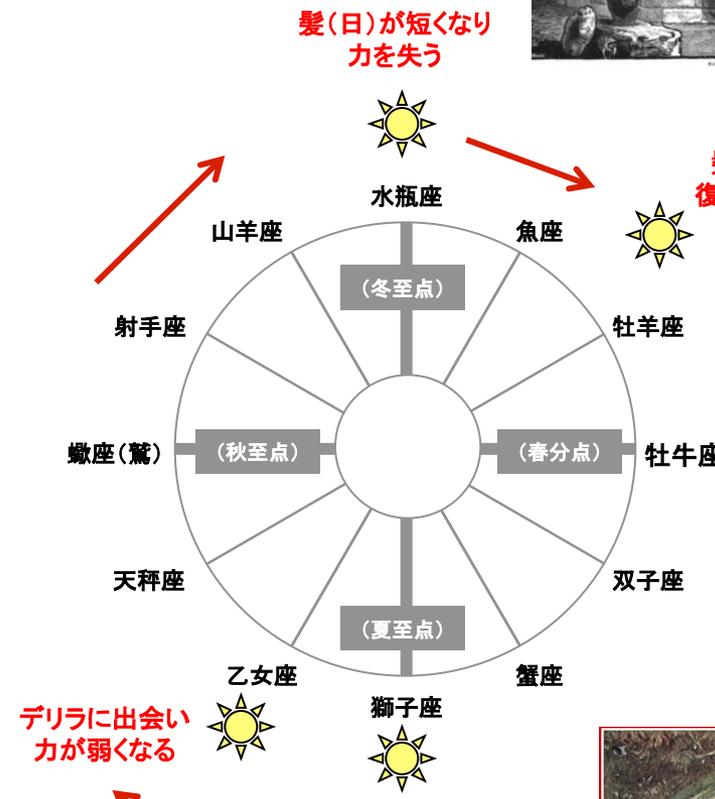
ヨハネの死は8月29日 **水瓶座の頭の星が地平線の下に沈み頭がないように見えた。**この日に太陽が獅子座のもとに昇る。獅子座はユダヤの王の象徴でヘロデを指す。そして秋の入り口である乙女座の女性(ヘロデの娘)により力を失くす。



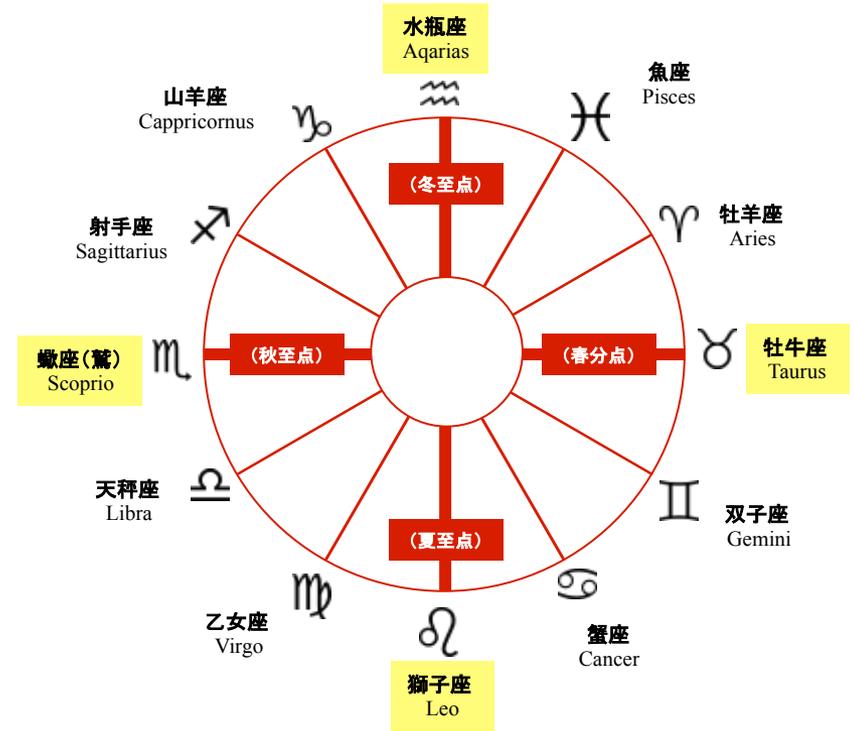
# サムソンと太陽の変化

サムソンの髪の毛の長さや力は、太陽の日の長さや強さを表している。

- 士師記13章～16章。サムソンの名前には「太陽の人」「神に使えるもの」という意味がある。
- サムソンの髪と力強さは太陽の一年のサイクルを表している。
- ライオンを引き裂いた後に乙女であるデリラと出会い力が弱くなる。夏至点を過ぎて弱くなる太陽を象徴。
- しかししばらくすると髪が伸び再び力が強くなる。太陽も同じく。



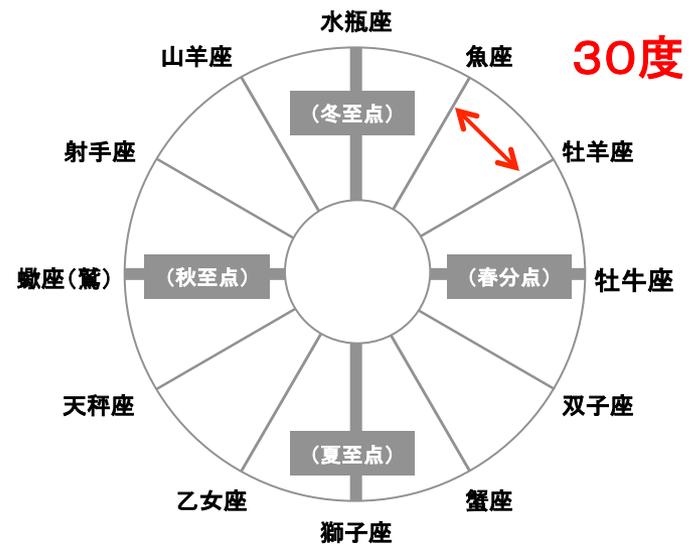
- ルカ二章の記述で「飼い葉に」横たえたとは書いてない。ある外典のヤコブ福音書では洞窟となっている。飼い葉の場合は馬小屋で山羊もいたとされる。イエスが生まれたとされる時期は馬の射手座と山羊座の間。
- 魚座 最初に選んだ弟子は漁師であった。イエスが配った魚は二匹であったが、これは魚座のシンボルの二匹と関係がある。
- 羊座 羊飼いになった。
- 牡牛座 英語ではTaurusという。タルソスで地を耕す例えがでてくる。
- ふたご座 弟子の二人兄弟
- 蟹座 バビロニアでは太陽が一番強い時の蟹座をロバで表していた。イエスがロバに乗ってやってきたのは、イエスが太陽を象徴しているから。
- ライオン ユダの象徴を引きついでいるイエス
- さそり座 イエスは裏切られる。秋至点に入り太陽は弱くなる。



バチカンの天井



# イエスが30歳で変化を起こす理由



360度を12の星座で割ると30度になる。  
従って30は変化が現れる時である。

## イエスと釈迦の類似性:

- イエスは30歳でバプテスマを受けて布教活動開始。仏陀は30歳で覚醒している。
- 両者とも母親が神の手で妊娠している。
- 生まれて時に賢人が尋ねてきている。
- 悪魔との誘惑と闘い悟りを開いている。
- 弟子を集めて布教活動を行っている。



釈迦にお粥を捧げるスジャータ



イエスに香油を捧げる娼婦マリア



マーヤーに白い像のお告げが



マリアにガブリエルからのお告げが

<http://www.near-death.com/experiences/origen045.html#a01>  
<http://www.near-death.com/experiences/origen045.html#a02>  
<http://mujaki666.seesaa.net/article/123576209.html>

# 獣に囲まれているイエス

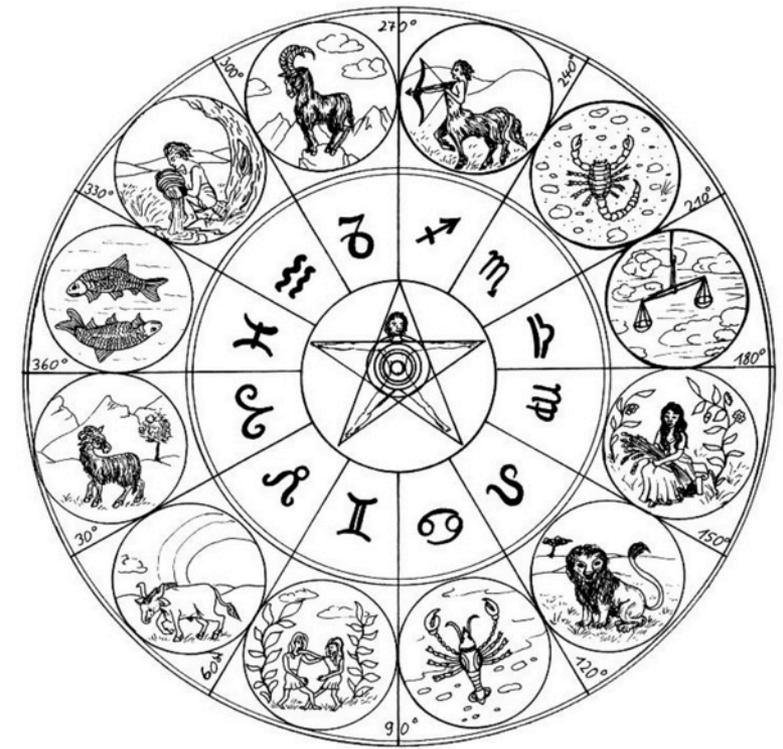
『イエスは四十日間荒野にいて、サタンの誘惑を受けられた。  
野の獣とともにおられたが、御使いたちがイエスに仕えていた』  
マルコ 1:12-13



荒野に獣はいないので比喩的な意味である。



Zodiac on a synagogue floor at Beit Alpha, Israel (6th cent. AD/CE)



イスラエルのシナゴグの床に描かれている  
12星座(6世紀)。星座の獣とみ使いに囲まれている。

## 太陽崇拜への起源

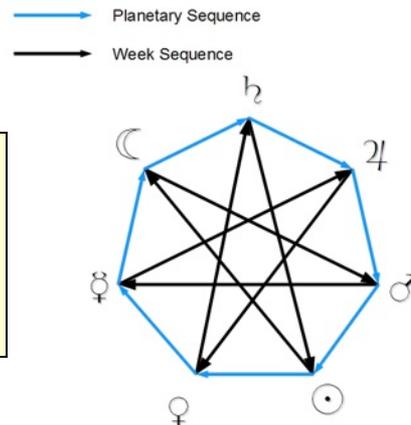
- 冬至点の3日間は太陽が止る イエスが神殿を建て直した。ヨナも同じく三日。
- ヒンズー教でもAndhra Pradesh 3日間。 アンドラプラデシュ
- ドルイドの太陽復活の祭も3日間。
- 神話の神々は冥土の世界に下る。二本では天岩戸がそれにあたる。太陽神である天照大神が隠れると世界が真っ暗になる。
- 太陽が一番暑いのは獅子座であるライアの座。(ユダの象徴。 ソロモンの座は12のライオン。)

## イエスを太陽としてみるとつじつまが合う描写:

- 処女から生れるのは、処女の新月と関係している。
- 12時に太陽が一番高い時とイエスの12歳は関係がある。
- 星座は30度で変わる。イエスは30歳で宣教を始める。
- 太陽は水面に沈む時に油を注がれたものとなる。
- 水の上を歩く = 水面にうつっている太陽。
- 太陽は世の光で、栄光を帯びて雲の上ののってくる。
- 王冠は太陽の光を表している。
- イエス マタイ17:2で太陽のように変貌。
- ヨハネ8:12 わたしは世の光(太陽)
- 啓示1:7で雲と共にきて、全ての人が見る
- 啓示1:16ではイエスの顔が太陽のように輝いていた
- 使徒26章13節。でパウロがイエスの声を聞いたのも太陽が強い正午であった。



聖書で七が天的な完全数とされているのは当時  
観察できた動く天体が七つであったから。  
(太陽、月、水星、金星、火星、木星、土星)  
週の曜日から手相までも占星術の7が基本になっている。



- **力持ちサムソン**の話は一年の太陽のサイクルに沿った神話である。髪の毛の長さとの関係は季節による太陽の光線の強さを表している。秋の前に乙女座(女性)を通過すると力が弱くなるがこれはデリラと関係する。
- 古代イスラエルが捧げた牛の犠牲(牡牛座)、ほふられる羊(牡羊座)として象徴されるイエス、魚(魚座)を配るイエス。これらは全て約二千年周期で変わる**一二星座の時代**に対応する。注目に値するのは聖書の中でも、ヘブライ語聖書以降ではいきなり牛を犠牲にする習慣が無くなっている事。
- イスラエルの**一二部族**もイエスの**一二人使徒**も一二星座を表している。イエスは一二使徒の真ん中に囲まれた太陽を象徴していえる。
- 啓示四章に出てくる神の座を囲む**四つの生き物**は「人、雄牛、ライオン、鷲」の顔をしている。人=水瓶座(水瓶をもって人)、牛=牡牛座、ライオン(獅子座)、鷲=蟹座(古代は鷲座)であった。この四つの星座は五千年前の時点ではそれぞれ冬至点、春分点、夏至点、秋視点を表していた。一二星座の円チャートに記しを付けると分かるが、これらは直角の四方に位置しており、**東西南北の風水**を現している。
- バプテストのヨハネとイエスが半年離れて生れている理由は、太陽の冬至点(イエスの一二月二五日)と夏至点(ヨハネ祭の六月二四日)のサイクルにある。それでヨハネは半年後にやってくる太陽を指して、「私の後に若くてもっと力強い者がくる」と言っていた。**イエスが生れたのは火(太陽)の誕生日**の日であった。そして**ヨハネが生れたのは水(水のバプテスト)の誕生日**であった。これは異教徒の水の祭の日に由来している。
- **ヨシュアとイエスは同義語**(イエスのユダヤ語表記はヨシュア)であり、ヨシュアは太陽と関係していた。実際にヨシュアは太陽の動きを止めた事で知られている。
- イエスが生れて来た時に三人の賢人(マギ)が明るい星を目指してやって来る。これは**冬至点にオリオン座のベルトにあたる三つの星**が、シリウスの方向を指すところに由来している。星がこの角度で並ぶ時、それは**太陽の誕生**を告げる事になった。
- **イエスの復活祭**はもともと太陽のお祭りで、春分点で日の長さが夜より長くなる太陽の復活を象徴していた。春分点の時に太陽が羊座から魚座を横切るため、羊(イエスの象徴)が犠牲とされていた。



バビロンで生まれた占星術は  
聖書の神話にも引き継がれている

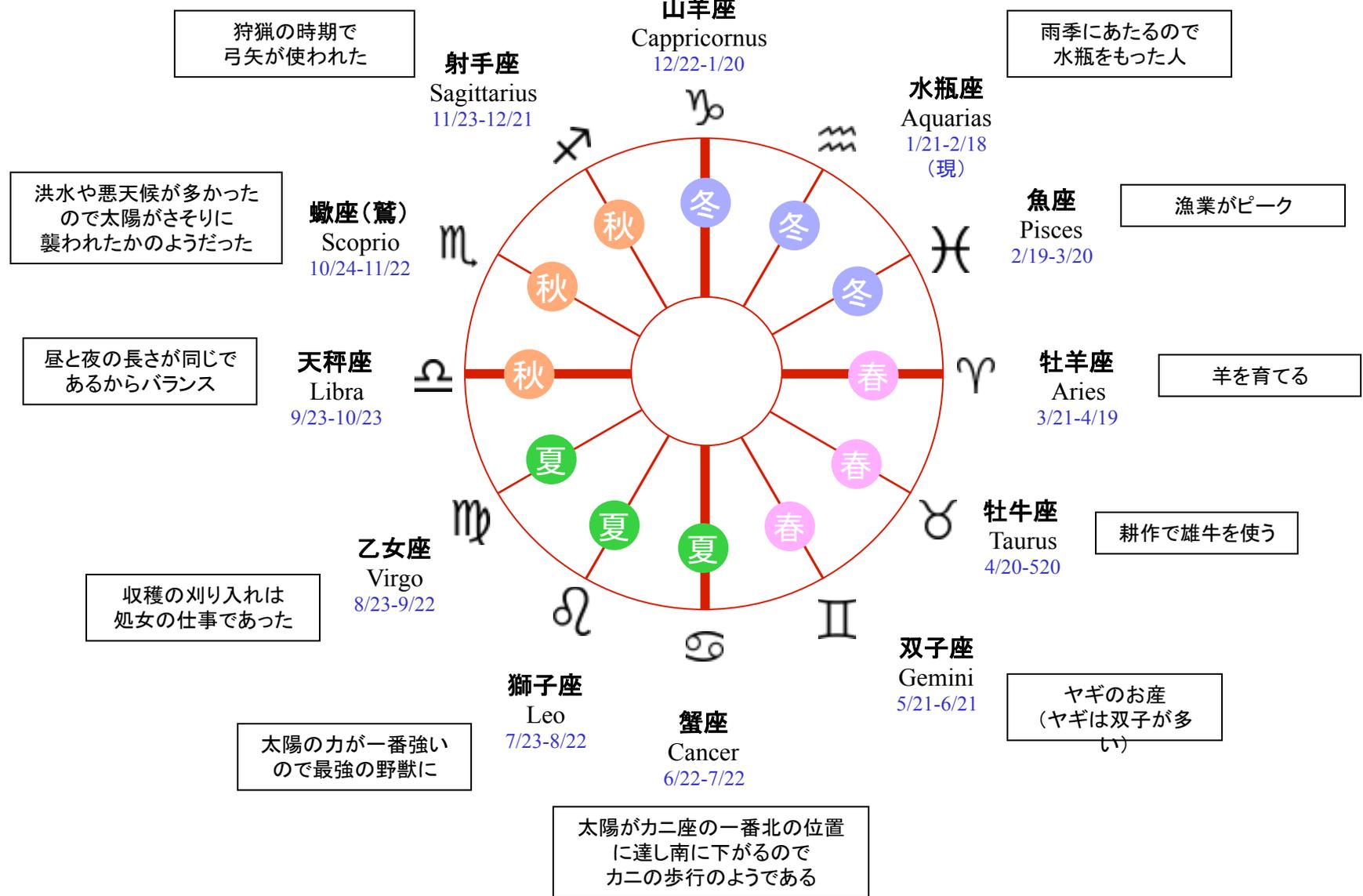


## 星の動きと聖書

# バビロンの農業を基本とした星座の由来

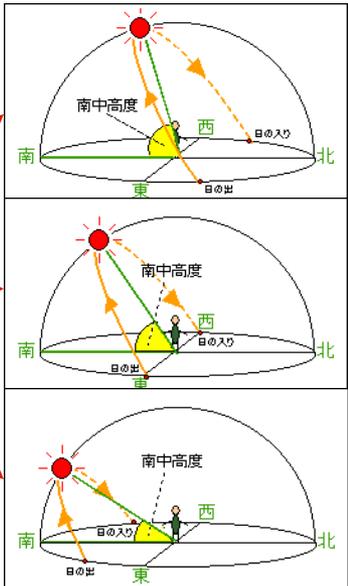
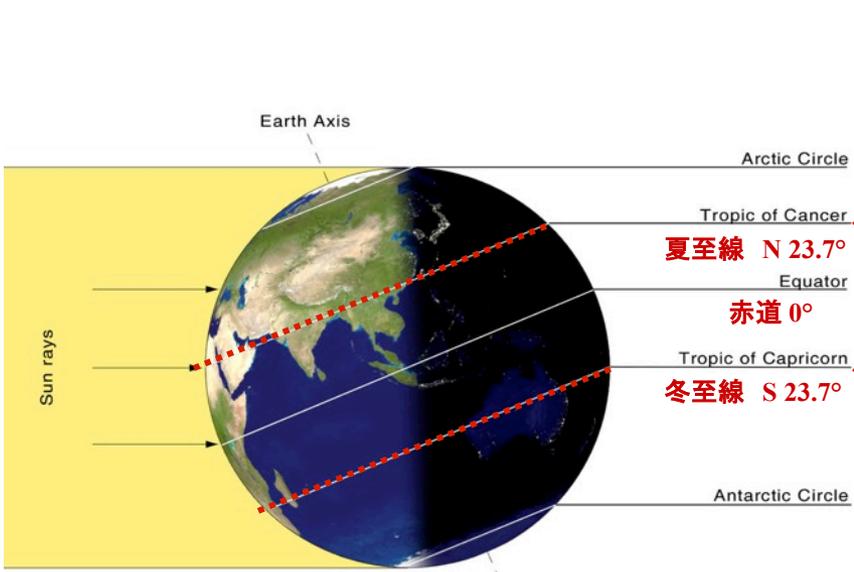
占星術の基本となる12星座はどのようにしてできたのか？

太陽が一番低い位置から上に昇るので、高いところへ登るヤギの習性を反映



太陽がカニ座の一番北の位置に達し南に下がるのでカニの歩行のようである

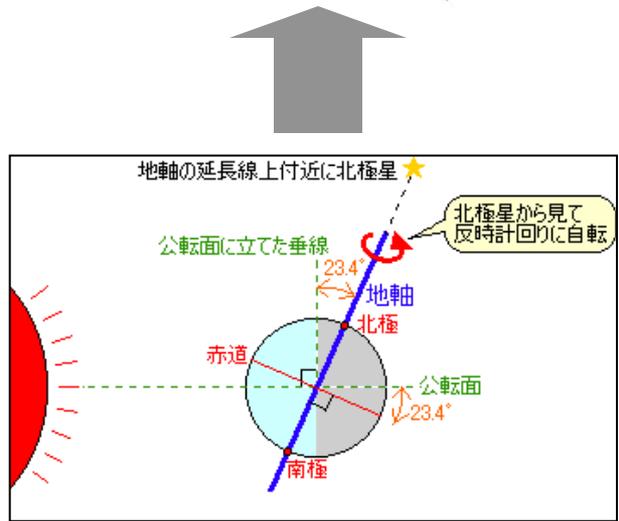
# 黄道と太陽の出没の関係性



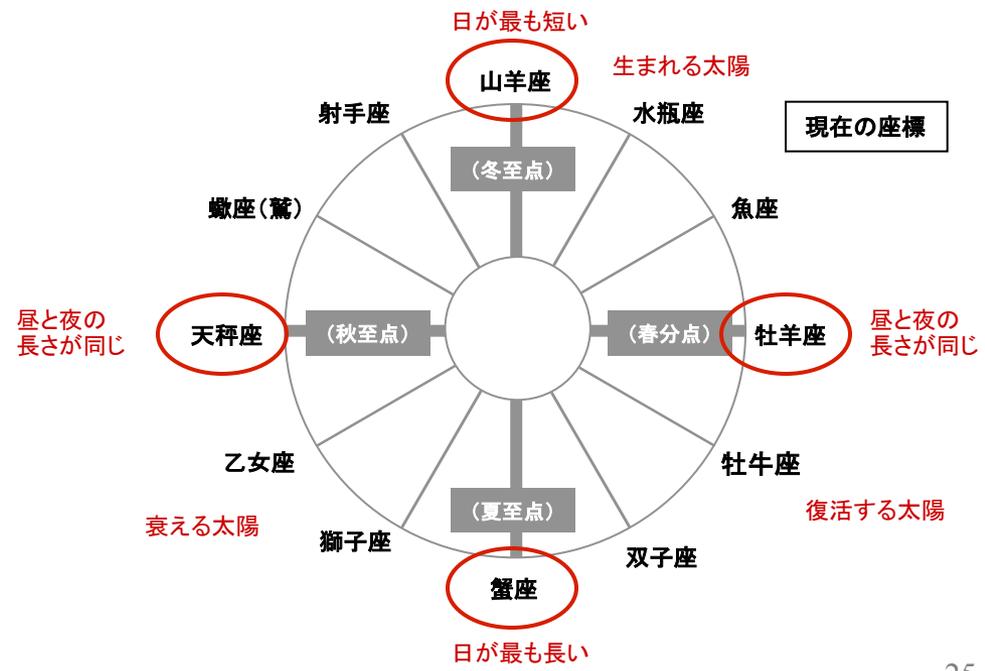
**夏至点**  
Tropic of Cancer (蟹座)  
一日が一番長い日なので、太陽が一番強い。

**春分/秋分**  
昼と夜の長さが同じ。  
春分で日が長くなるので太陽の復活。  
⇒復活祭  
秋分は日が夜より短くなるので太陽の衰えを現す。

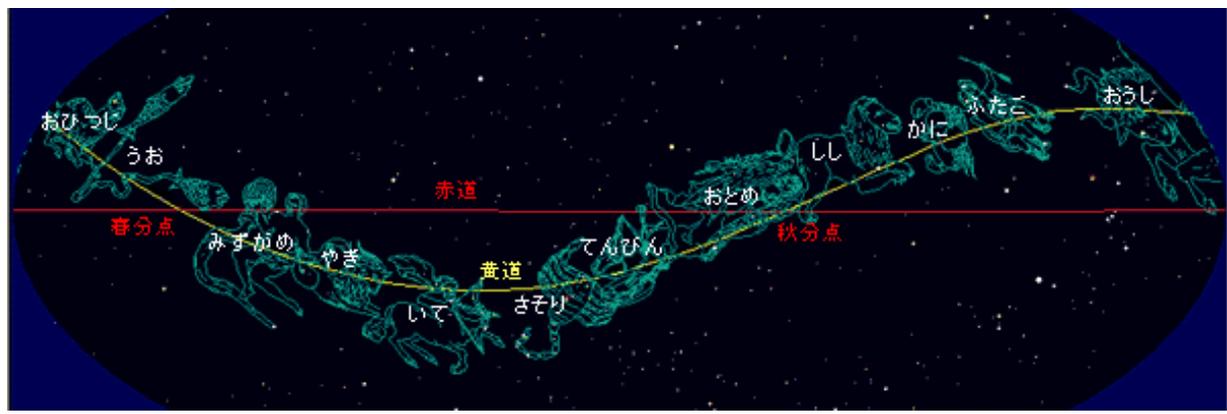
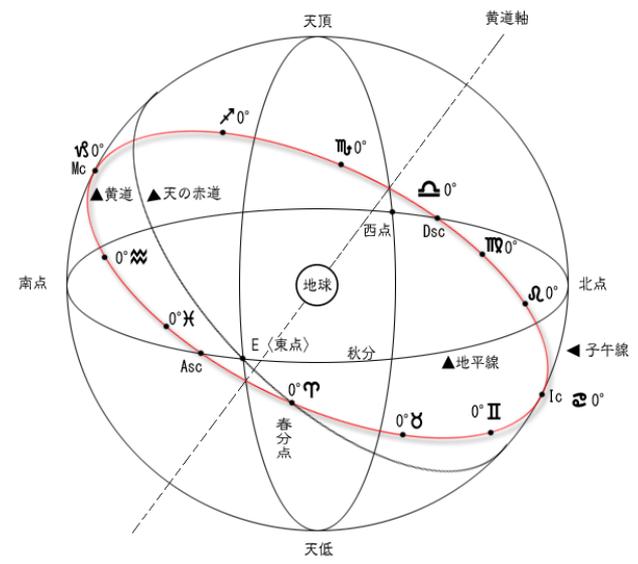
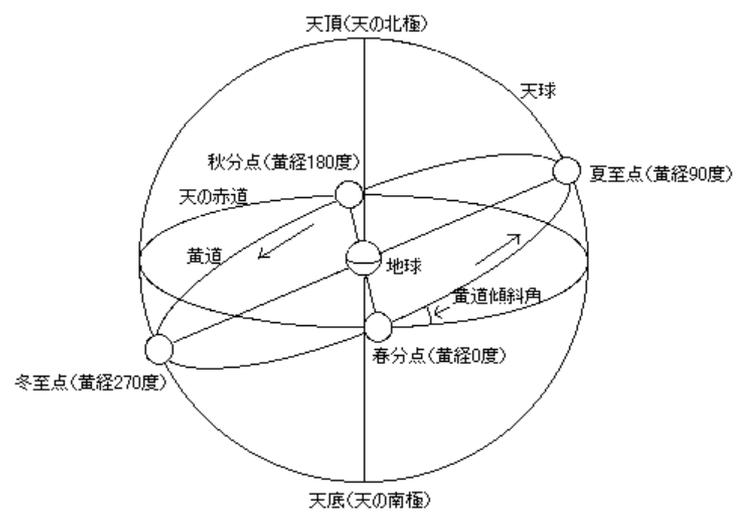
**冬至点**  
Tropic of Capricorn (山羊座)  
太陽が一番短い日なので次の日は太陽の復活になる。  
太陽の誕生⇒イエスの誕生



地軸の傾きにより一年を通じて太陽の通る道が変わる。



# 黄道と12星座の関係性



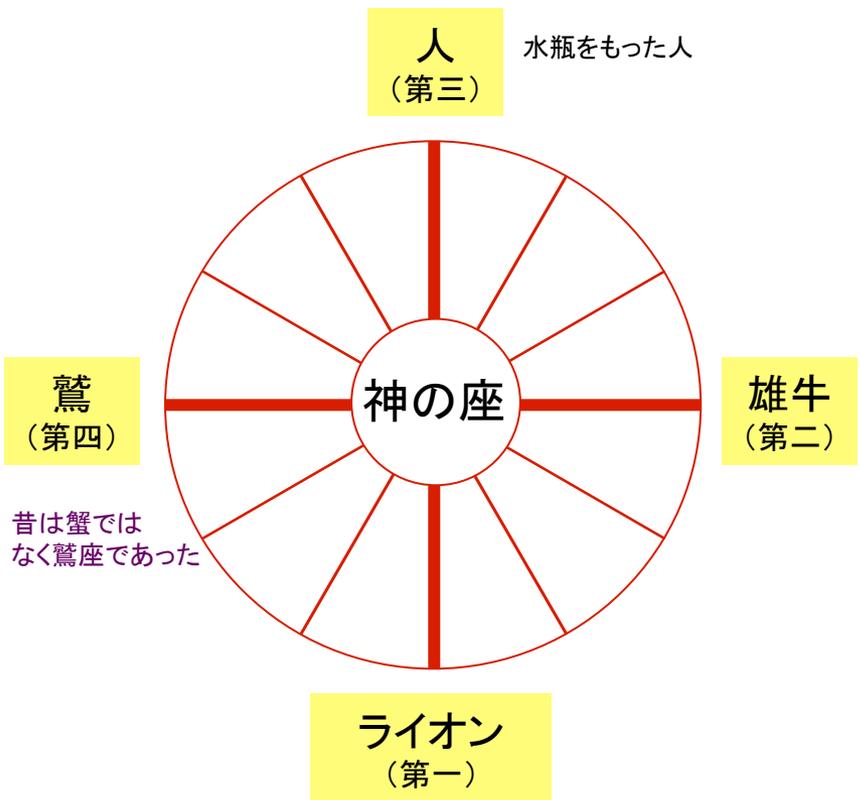
**黄道**(こうどう)とは、天球上における太陽の見かけの通り道のこと。黄道は地球の字軸の傾きのために天の赤道に対して23.4度傾いている。昼間は太陽が明るいので星座が見えないが、もし星座が見えていたら太陽の軌道がどの星座を横切るかを見る。どの月かにより太陽がどの星座を横切るかが変わる。12の星座はこの黄道により設定されている。

## 動画での黄道の説明

<http://www.city.itako.lg.jp/ayame/ayame/index/index.htm>

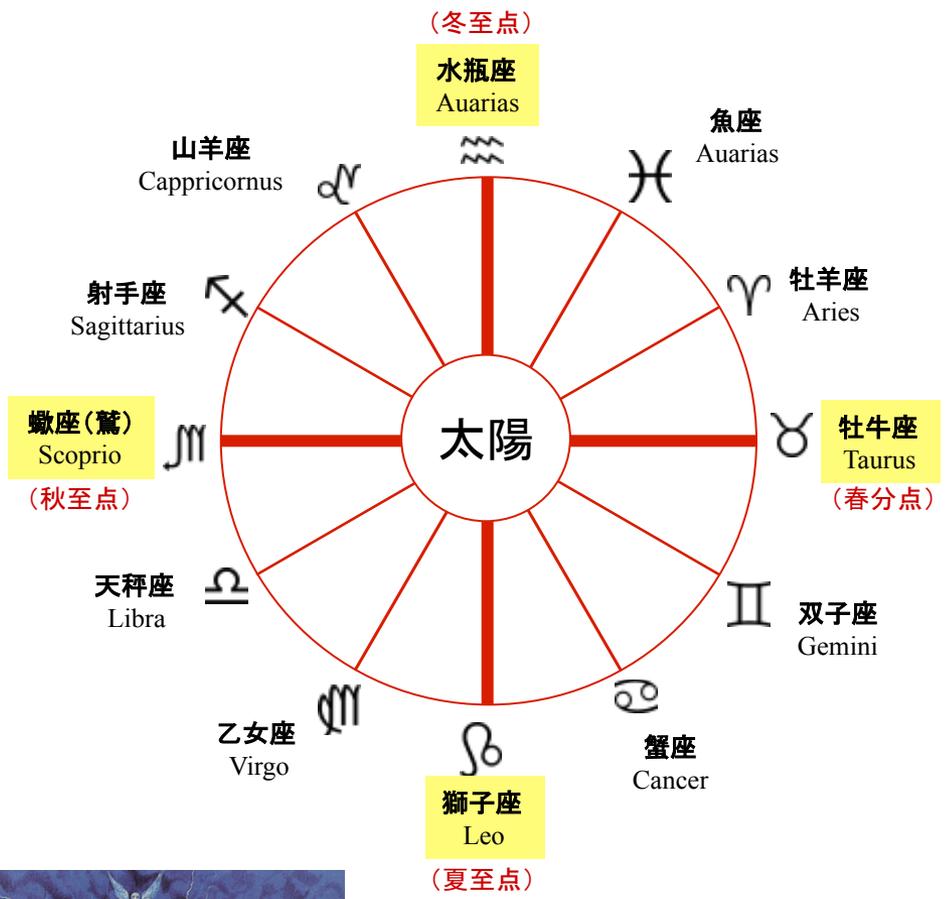
# 啓示の4つの生き物は12星座からきている

黙示録4章の4つの生き物

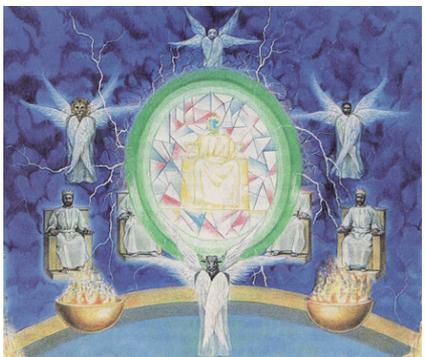


昔は蟹ではなく鷲座であった

5000年前の12星座の位置



なぜ神の御座を囲んでいる4人のセラフの頭が動物の顔なのか不思議に思ったことはないだろうか？ 実は12星座における太陽の位置を表している。



# 4つの生き物の由来は古代密教から

## エゼキエル1:5

その中から四つの生き物のようなものが現われた。彼らはこのように映った。すなわち、その姿は地の人のようであった。6そして[各々]四つの顔があり、彼らは[各々]四つの翼を持っていた。7また、彼らの足はまっすぐな足で、その足の裏は子牛の足の裏のようであり、磨き上げた銅のきらめきによるかのように輝いていた。8また、彼らの四方の翼の下には人の手があり、その四つのものには顔と翼があった。9彼らの翼は互いに連なっていた。彼らは行くとき、回らずに各々まっすぐに前進するのであった。

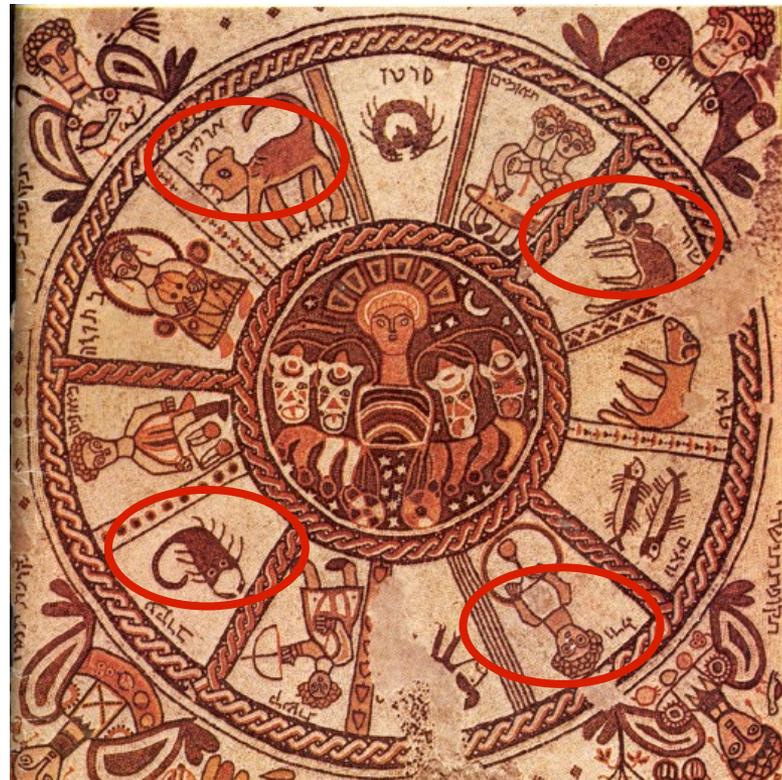
10そして、その顔の有様についていえば、その四つのものには**人**の顔があり、右には**ライオン**の顔があり、その四つのものには左に**雄牛**の顔があり、その四つのものにはまた、**鷲**の顔があった。11彼らの顔はそのようであった。そして、彼らの翼は上に向かって広がっていた。各々[の翼]二つは互いに連なっており、二つは体を覆っていた。

15わたしがそれらの生き物を見ていると、何と、見よ、地の上に、それらの生き物のそばに、各々の四つの顔の傍らに、一つの輪があった。16その輪の外見と作りは、貴かんらん石のきらめきのようであり、その**四つのもは一つの姿**をしていた。そしてその外見と作りは、**輪の中に輪がある**ときのようにであった。

## アッシリアでは季節を表していた

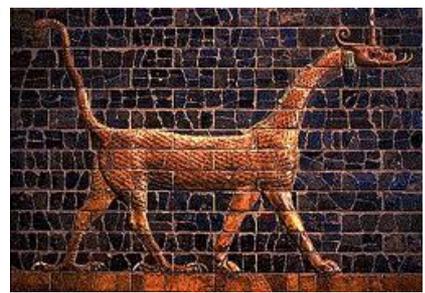
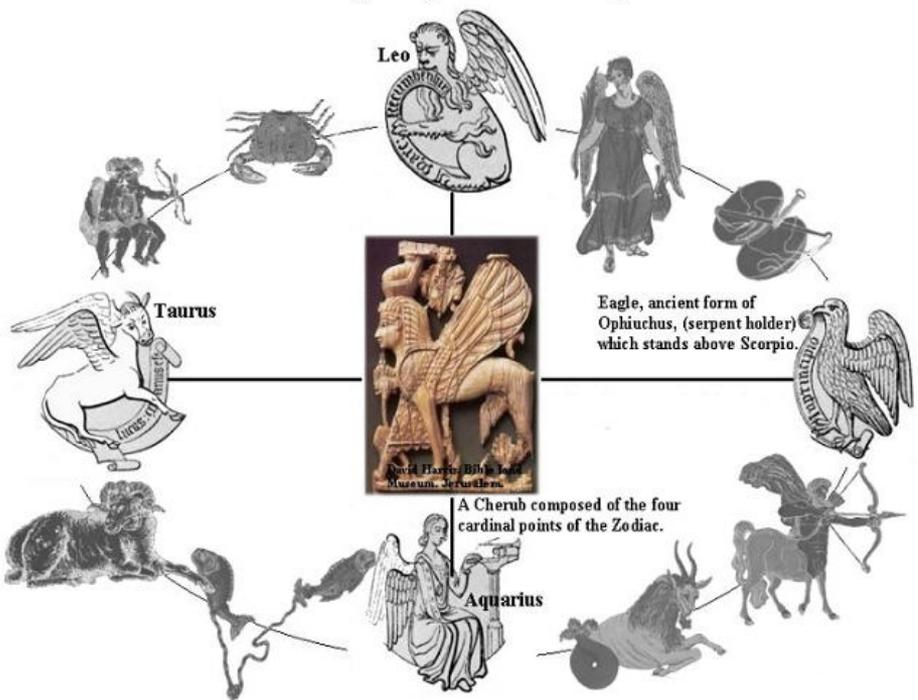
- Aquarius (air)
- Taurus (earth)
- Leo (fire)
- Scorpio (water)

「輪の中に輪」は星座の表でも描かれている。

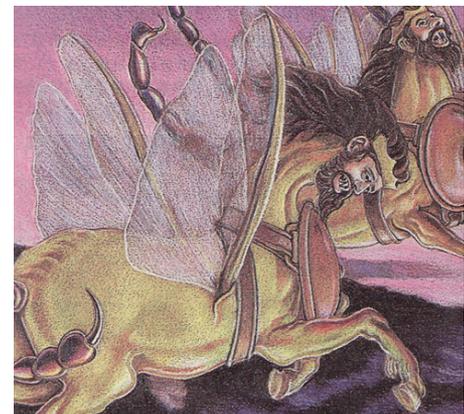


# 複合的な聖獣は聖書だけではない

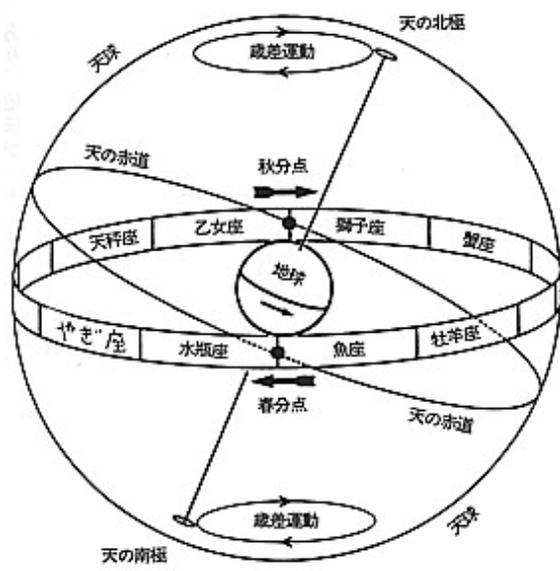
聖書には数多くの複合的な獣が登場するが、同じようなものはバビロン文化にもある。中国の聖獣である麒麟も複数の動物を組み合わせたものである。



ビール会社のロゴにもなっている麒麟

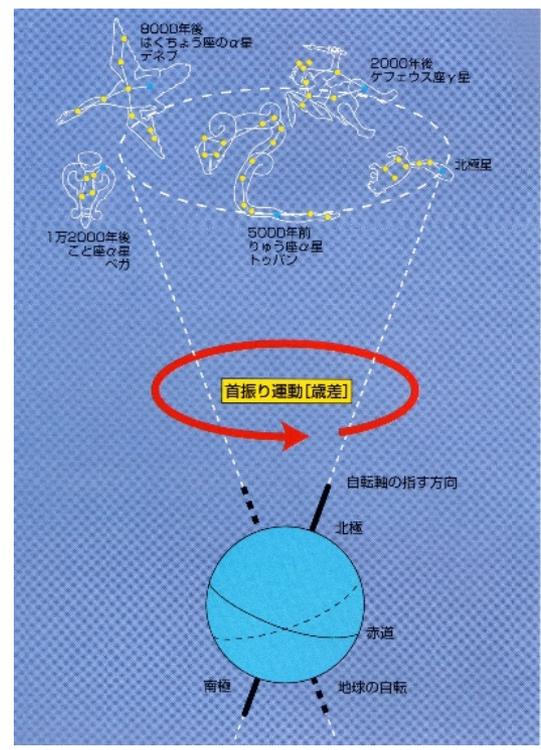
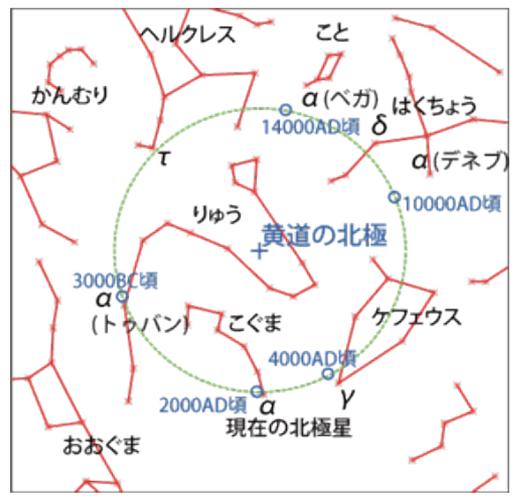


# 2000年単位で変わる『時代』



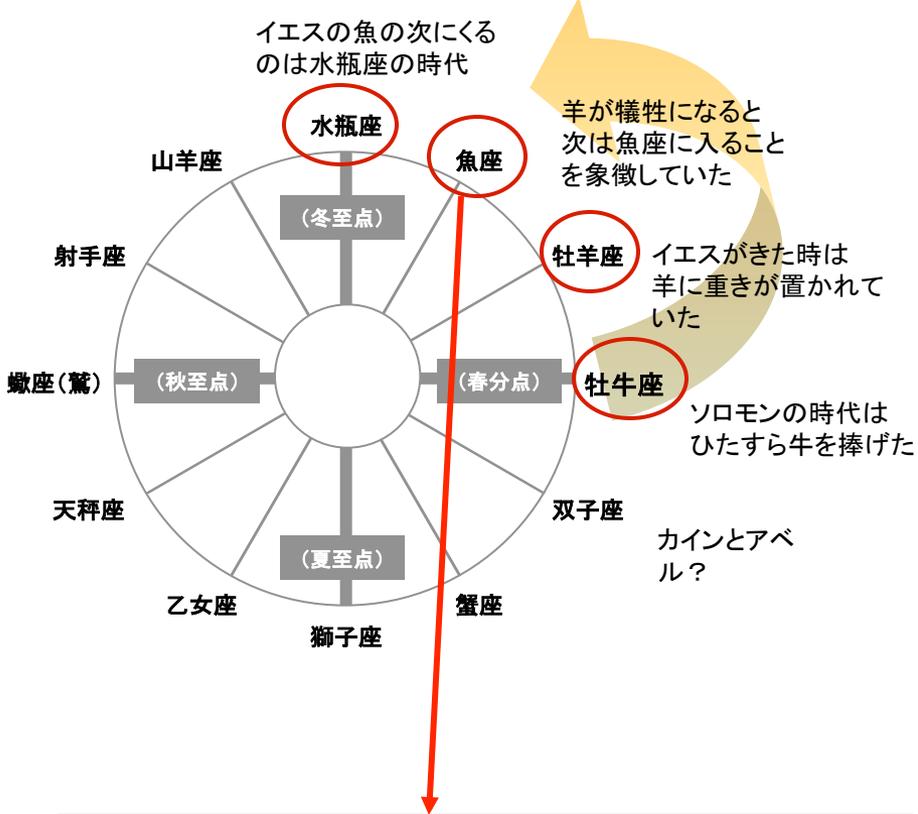
歳差運動 地軸が一周するのにかかる25920年、30度で2160年。つまり一つの時代は約2000年単位で変わる。

- 20世紀（水瓶座の時代） 現代
- イエスの時代（うお座の時代）
- 紀元前20世紀（羊座）
- 紀元前40世紀（牛座） ダビデ、ソロモン



# 生贄の動物が時代によって変わっているわけ

主の晩餐の会場を探すにあたり、弟子は「水瓶を持った男」についていくように指示される。なぜ水瓶を持った男だったのか？それはイエスの次の時代を予表していたからだ。



## イエスがいったのは世の終わりではなく「時代」の終わり。

春分点の存する星座がその時代(1つの星座で約2千年)を象徴するとされる。春分点は紀元後1世紀から20世紀までは「うお座」にあったが、20世紀末ごろに「みずがめ座」に入ったとしている。現代は「水瓶座の時代 (the age of Aquarius)」と呼ばれている。

歴史の年代と当時の星座の時代を見ると興味深いことが分かる。旧約聖書の時代はやたらと牛の犠牲に強調が置かれていた。新約聖書には牛の犠牲という概念はでてこない。代わりに羊の犠牲が強調される。そしてイエスは魚を表していた。イエスが配った二匹の魚はうお座のシンボルをあらわしている。

**キリストが魚として表されている理由:**  
 Ἰησοῦς Χριστός, Θεοῦ Ὑιὸς Σωτῆρ  
 (イエス・キリスト、神の御子、救世主)この頭文字 I-X-Θ-Y-Σ-を繋ぐとギリシア語で「魚」を意味する ἰχθύς (ichthys) となる。キリストが生まれた時代には春分点が「うお座」にあったためである。そのため1世紀から20世紀は魚座の時代であった。ローマ法王の頭も魚の頭を象徴している。



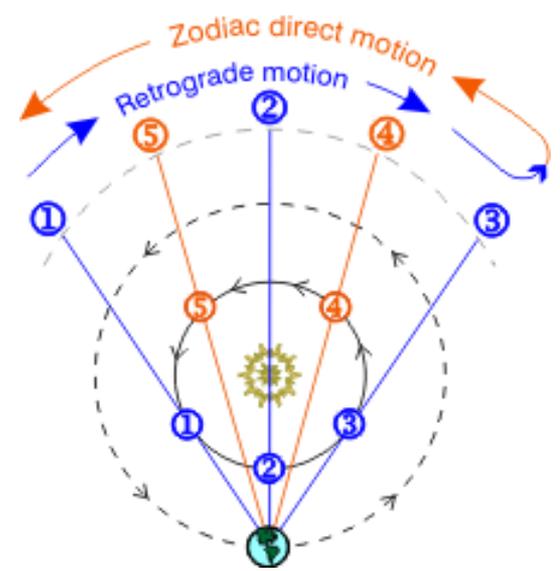
- I Jesus
- X Christ
- Θ God
- Y Son
- Σ Saviour



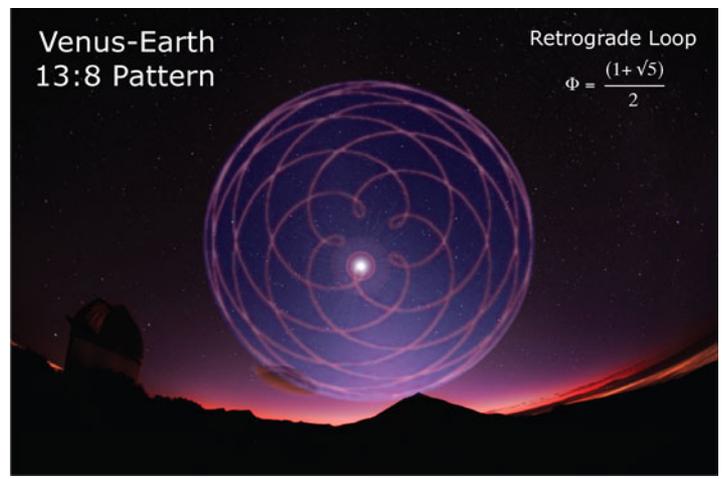
# なぜ試練は40日なのか？

## 神話に出てくる40日間

- イエス荒野40日。
- エリヤも40日ホレブ山にこもる。
- モーセ40日シナイ山
- イスラエルの荒野の40年
- ノアの40日の大雨
- イエス40日後に昇天
- カナンのスパイ40日。
- ゴリアテ殺される前に40日。
- ヨナ40日ニネベ。
- ダビデとソロモンも40年統治。
- ムハマドも洞窟に40日。



**Retrograde** 金星の軌道と地球の軌道の関係で、金星が40日間逆行しているように見える現象が発生する。逆行は20ヶ月ごとに起きる現象で、軌道上の長さの違いから、地球から見ると金星が逆行しているように見える。そのため不吉・困難な期間としての意味を持つようになった。お釈迦も悟りを開く前に40日間瞑想したとされる。



<http://www.gather.com/viewArticle.action?articleId=281474978361073>

<http://www.ridingthebeast.com/numbers/nu40.php>

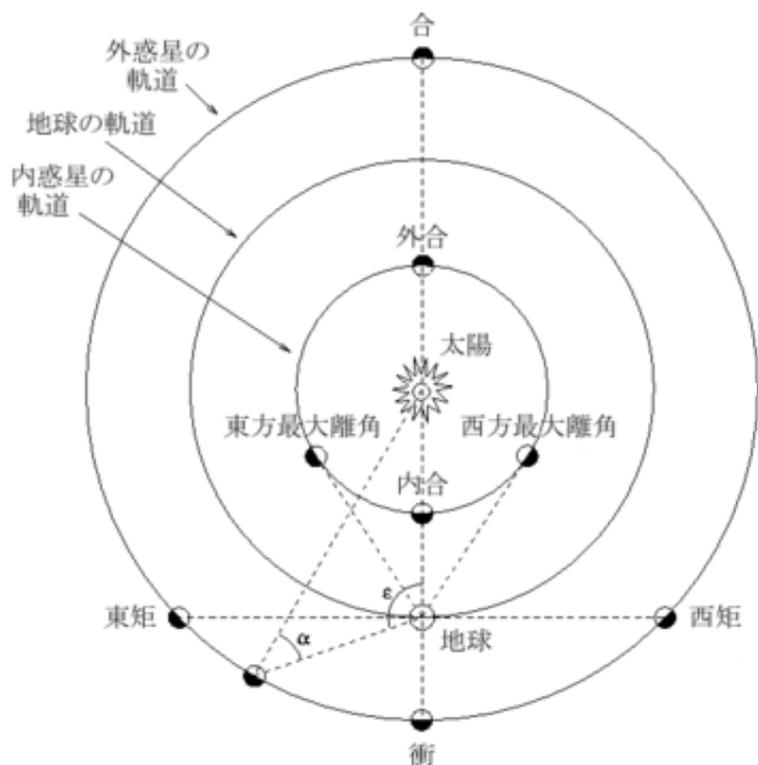
# なぜサタンは明星と呼ばれているのか

確認してください。

金星は神の裁きや試練に関係。

ラテン語で「ルシフェル」(Lucifer)

「光をもたらす者」ひいては明けの明星(金星)を意味する言葉である。



離角(りかく)とは、位置天文学において、ある点から見た2つの天体のなす角度である。とりわけ「惑星の離角」と言った場合は、地球の中心から見た太陽と惑星のなす角度(地心真角距離)をさす。日の出より早く金星が東の空に昇るため「明けの明星」と呼ばれる。明けの明星の見かけ上の明るさが最も明るくなるのは内合から約5週間後である。そのときの離角は約40度、光度は-4.87等で、1等星の約170倍の明るさになり、明るくなりかけた空にあってもひとときわ明るく輝いて見える。

神は星座をつくっている。しかしクリスチャンは占星術退ける。  
それでは神が異教徒の占星術のために星座をつくったのか？  
そんなことはない。星座は聖書の中でも重要視されている。

●詩篇147:4

[神]は星の数を数えておられ、  
そのすべてを[各々の]名で呼ばれる

●ヨブ38:31-32

あなたはキマ星座(プレアデス)のきずなをしっかりと結ぶことができるか。  
あるいは、ケシル星座(オリオン)の綱をも解くことができるか。  
32 あなたはマザロト星座をその定められた時に引き出すことができるか。  
それにアシ星座と共にその子らは、あなたはこれを導くことができるか。

●ヨブ9:9

アシ星座(クマ座)、ケシル星座(オリオン座)を造り、  
キマ星座(プレアデス)と南の奥まった部屋(星座)を造られた。

●裁き人 5:20 「天から星がシセラに対して闘った」と書いてある。  
デボラ女予言者の歌った言葉。

●パラダイスは星の中のという意味。イエスも天を指していた。

ルカ23:43のイエスは今日樂園にといったが、天国じゃないとムリだろう。  
アダムとエバに子供ができなかったのも、裸にきづかなかったのも死ななかつたのもうなづける。

●外典ジョシュJasherの本ではアブラムと父親のテラが

12の神と太陽と月を祈っていた。 Jas9:8-16

[http://www.johnpratt.com/items/docs/jasher.html#Jash\\_9](http://www.johnpratt.com/items/docs/jasher.html#Jash_9)



1920年代に組織はエホバの座が  
プレアデスの中にあると主張していた。  
神秘主義からは重要視されている  
星である。



ギリシャ神話のディオニューソスは  
ワインとパンの神であり杭につけられた。



## 聖書のシンボルの由来

聖書は他の神話と普遍的な題材を扱っている



メソポタミア



サムソン



スパルタの300人の戦士



ギリアデの300人の戦士

# 天使の描写は古代宗教から引き継がれている

聖書の天使の描写はそれより以前の宗教の天使像を踏襲したに過ぎない。

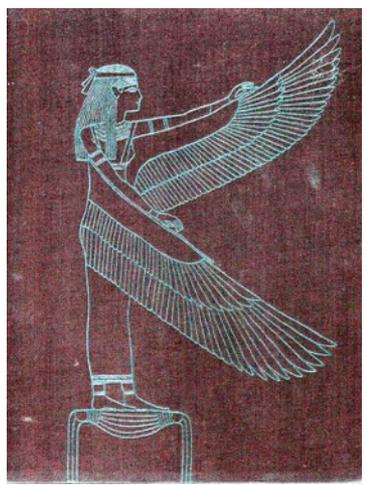
エジプト



バビロン



聖書





## ゾロアスター教団

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%82%BE%E3%83%AD%E3%82%A2%E3%82%B9%E3%82%BF%E3%83%BC%E6%95%99>

イランの宗教で紀元前6世紀にはペルシアで主流を占めていた。ダニエルがバビロンからペルシャへ王権が変わったのを目撃した時代でもある。

善と悪の二元論で聖書の神と悪魔の二元論の下地となっている。善の勝利。一神教。創造は天、水、大地、植物、動物、人間、火の7段階からなった。ペルシャからメソポタミアに広がり、虜囚期のユダヤ教へも影響を与えたユダヤ教を母体としたキリスト教もこれらを継承していると言われる。さらにペルシャ高原東部では大乘仏教において弥勒信仰と結びついた。

イエスのもとに現れた三人の賢人はマギと呼ばれており、ゾロアスター教の祭司であるMagus マグス マギ からきている。マジシャンの由来語でもある。12星座は英語ではZodiacと呼ばれているが、ゾロアスター教からのルーツが分かる。



聖書のケルブと同じく4枚の羽を持っていた。

# へびの杖は神話の普遍ツール

エジプト



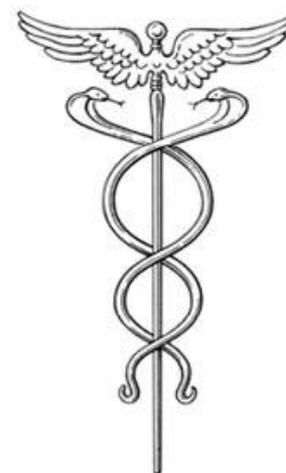
ギリシャ神話  
アスクレピオス



ギリシャ神話  
ヘルメス



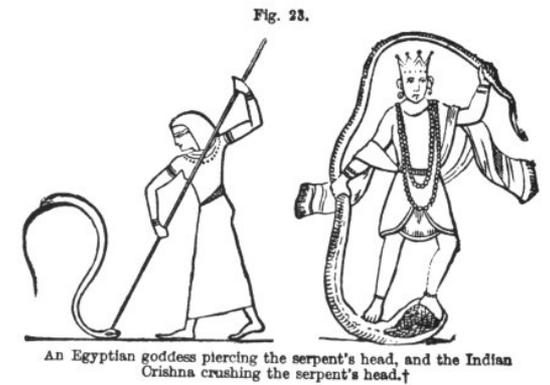
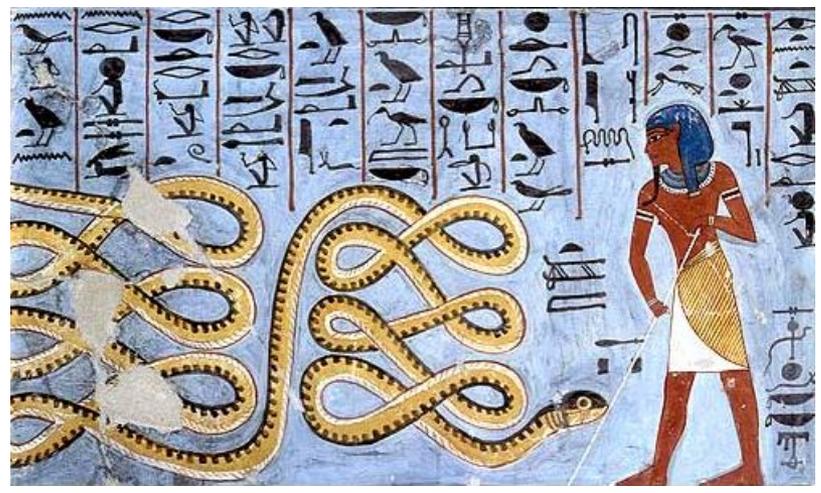
聖書  
モーセ



癒しの力を持つへびの杖は  
モーセだけのものではない。

# ヘビの頭を砕いたのはイエスだけではない

## 創世記3:15 彼はお前の頭を砕き,



### Apophis アポフィス

One of the greatest empires ever known that sprung up in the middle-east, Egypt, had they' re own version of the evil serpent that tried to cause chaos. *Apep*, (pictured below), was his name. Known by other names such as, *Apophis* and *Apepi*, this dragon was represented in Egyptian religion as a large serpent that Egypt' s chief god, *Ra*, god of the sun, had to battle against every morning to prevent Apep from keeping the sun from rising. Of course, Ra won every morning, slaying the serpent, only to have to fight him again the next morning.

### 太陽の神RAはヘビと戦った。

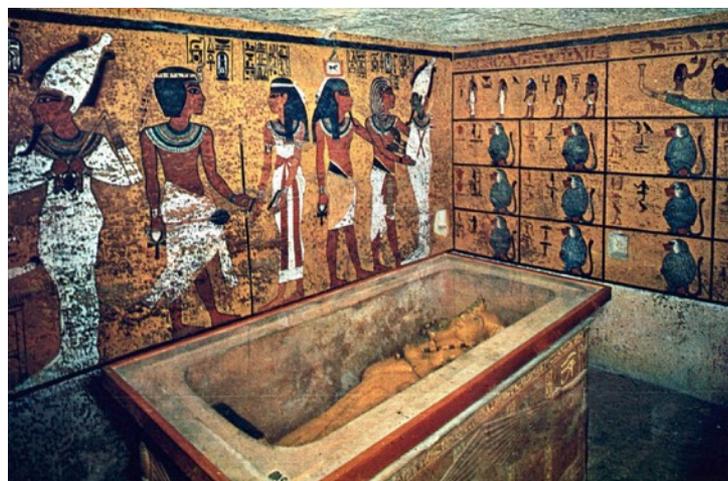
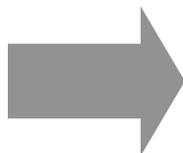


ヒンズー教のクリスナとヘビ Kaliya(カーリヤ)  
Krishna 's Dance on the Hoods of the Serpent

<http://www.piney.com/His225.html>  
The Two Babylons Deification of the Child Alexander Hislop

# エジプトの棺と契約の箱は同じ比率

エジプトから派生したユダヤ教はエジプトの宗教をそのまま引き継いだ。

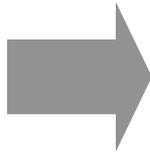


- 割礼はユダヤ人だけの特徴ではなかった。エジプト人も割礼を行っていた。
- 動物の犠牲の習慣もエジプトからである。
- エジプトの太陽崇拝と占星術がヘブライ語聖書の神話の下地になっている。

# ソロモンの二本の柱

●ヤキンとボアズの柱はオシリス男性(太陽・J) とイシス女性(月・B) を表していた。

ソロモンの神殿にあった二本の柱。エジプトに起源。二本の神社にもある。Boaz/Jackinとは陰陽の二元性である。



# 天国への階段

There is an ascending road with seven gates, and an eighth at the summit. The first gate is of lead, the second of tin, the third of bronze, the fourth of iron, the fifth of mixed metal, the sixth of silver, and the seventh of gold.



Cylinder seal with the solar disk of Ashur, anointing with two eagle-headed gods before the Tree of Life. The blossoms on the tree appear to be pomegranates.

アッシリアの生命の木(創世記にも登場)は天への階段(ヤコブも階段を見ている)の下地となった。頂上に行くまでに七つの扉があるとされており、鉛、スズ、銅、鉄、混合金属、銀、金となっていた。ダニエルの像を彷彿させる。

The short answer to the question- why was there a change in Greek ideas about the Underworld- is that Egyptian and 'Persian' beliefs and mythology diffused into Greek thought *because* of what was happening in Egypt. Of course it is more complex than that, but broadly speaking....The ladder to the stars- the abode of the divine- is an image that has its origin in the Assyrian Tree of Life, and remains today as the Cabala.

<http://thingsinthree.blogspot.com/2011/12/ladders-seven-1-gates.html>



ジググラト(Ziggurat)  
シュメール人都市国家の  
ウル遺跡(現イラク)



# エステル記はペルシャ神話の焼き直し

## エステル記

エホバの名前は一度も出てこない。聖書から外されそうにあった。エステルが女性の魅力を使ってイスラエルを悪いアモンの手から救うという内容。パレスチナの神話を加工したものである。(ユダヤ教のサイトの説明にそう書いていある) Purimプーリムの祭(冬の支配から逃れた春を祝う)がベースとなっている。



## Ishtar/Esther

イシュタルはアッシリアとバビロンの女神。闘いと性の神。恋人の女神から力を分けてもらうという思想があった。エステルも女の魅力を使ってユダヤ人の闘いを率いる。



## Marduk/Mordecai

マルドゥクはバビロンの都市の守り神。聖書ではモルデカイ王となっている。



## Amon/Haman

アモンはペルシャの悪魔であり、聖書ではハマンとなっている。



**バビロン**  
セミラミスとタムズ



**インド**  
デーヴァキーとクリシュナ



**エジプト**  
イシスとホルス



**聖書**  
マリアとイエス

処女から生まれたのはイエスだけではない。  
古代神話には度々処女から生まれた神の  
子が登場する。



## Hermes ヘルメス

<http://en.wikipedia.org/wiki/Hermes>

ギリシャ神話。ゼウスの子供。

ヘルメスの称号

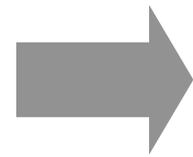
羊を運ぶ者

人の僕者

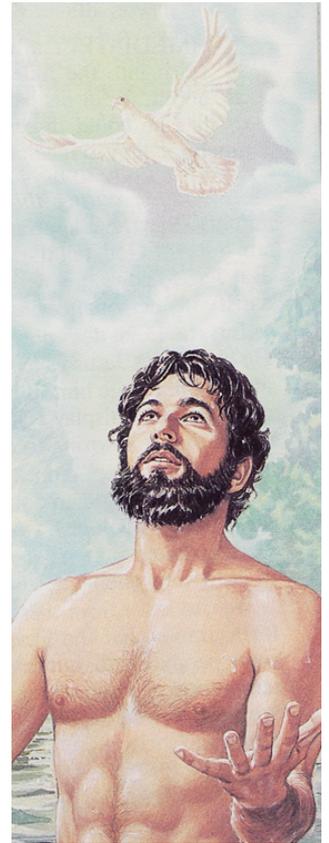
群れを守る者

# ハトはバビロンのシンボル

Fig. 25.↓



ノアの箱舟のシンボルはバビロンから



バビロンの神話ではニムロデ(聖書がそれより前の宗教を貶めるために悪の王としているだけ)の妻のセラムスはハト(母)と枝(子)によって表されていた。



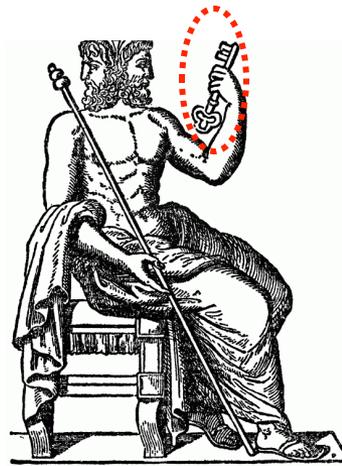
セラムスはローマでは金星を表す女神コルンビアとなった。そのモチーフは今も自由の女神に受け継がれている。

# ペテロが岩である理由

## 鍵と岩のシモン・ペテロ

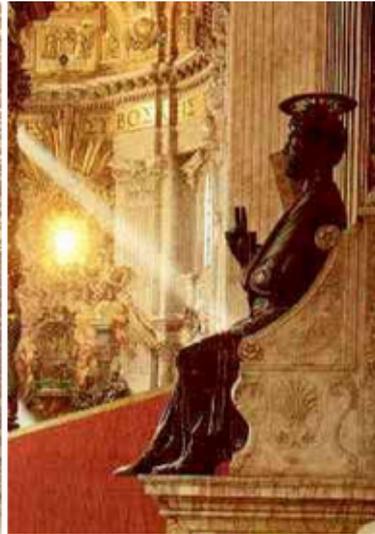
ペテロとは岩を意味する。三世紀に聖書は改ざんされており、それより以前はペテロに関する記述がない。バチカン自分たちを正当化するためにペテロの岩の上に教会を建てるという設定にした。そうでなければ**ペテロの名前が偶然「岩」を意味するのはおかしいだろう。**

鍵を握るペテロはエジプトの死者の書に登場する門番のペトラと同じ。また、ローマ神話のジャヌスをもとにしてJanuary(水瓶座)で年の扉を意味していた。鍵をもったジャヌスの銅像がバチカンに置かれている。

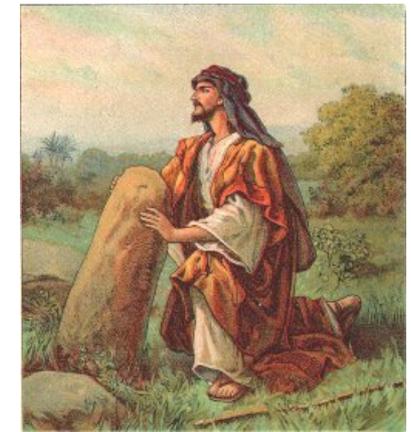


## 古代宗教からのシンボルである岩

ミトラの神聖な岩の上にバチカンは建てられた。古代キリスト教はそれ以前の密教の崇拝所の上に教会を建てていった。そこがパワースポットであるからである。バチカンの広場の真ん中にある棒はペニスでドームは女性の性器を象徴。陽と陰に対応する男性性と女性性の象徴は古代から神聖なものとしてきた。創世記28:18で**ヤコブも岩を立てて拝んでいる。**



太陽の輪は古代宗教のシンボル



# 弟子と古代神話の繋がり



12部族も12弟子の中にも双子がいた。双子座は古代神話の中で度々登場する。上はポルックスとカストルの双子。

## 使徒の名前:

マタイ10:2~4

マルコ3:16

ルカ6:14

ヨハネにリストはない

使徒1:13

聖書を書いたとされるのは

ペテロ、ヨハネ、マタイの三人

## 12使徒の解説

[http://www.emimatsui.com/artstudy/bible/new\\_bible05.html](http://www.emimatsui.com/artstudy/bible/new_bible05.html)

[http://en.wikipedia.org/wiki/Apostle\\_\(Christian\)](http://en.wikipedia.org/wiki/Apostle_(Christian))

## 使徒の英語解説

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BD%BF%E5%BE%92#.E5.8D.81.E4.BA.8C.E4.BD.BF.E5.BE.92>

## 使徒の日本語解説

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BD%BF%E5%BE%92#.E5.8D.81.E4.BA.8C.E4.BD.BF.E5.BE.92>

## The Christ Conspiracy 170p

## ●ヤコブ(ゼベダイの子)とヨハネ(ヤコブと兄弟)

二人は雷の子らと呼ばれている。マルコ3:17ではボアネルゲス(雷の子)とある。Boanerges ギリシャ神話ではBrontes(雷)Arges(眩しい)という兄弟が出てくる。ルカ9:51でが火を降らせようかとイエスに提案する。雷の神であるゼウスの二人の子供ポルックスとカストルのふたご座であるとも言われている。12部族の中にも双子がいるのは興味深い共通点。

## ●イスカリオテのユダ

イエスは有名だったのでキスされる必要はなかった。12使徒は12時間の日中を表しており最後の時間であった。太陽の力(イエス)の力を弱める11月の星座。宗教画では赤い髪で描かれている。エジプト神話で悪のセトSeth,ギリシャ神話チュポンTyphonが夕日の赤い髪をしていた。兄のオシリスを裏切って殺している。マタイの書27章では祭司から受け取った銀かを神殿に投げ込み首をつつて自殺(エレミヤの予言とされるがそんな聖句はない)。使徒1章では裏切りで入った金で買った土地に落ちて死んでいる(ダビデの予言 詩篇69:26 繋がりが無い)。興味深いことに創世記37章ではヨセフを裏切って銀で奴隷に売り渡したのはユダである。イエスもユダによって銀で売り渡されている。



- ペテロ 教会の礎(岩)となり、イエスから鍵を授けられた
- アンデレ(ペテロの兄弟)
- フィリポ(一度)
- ハルトマイ(一度)
- マタイ(一度)
- トマス(一度) ヨハネ21:2「双子と呼ばれるトマス」とある。ふたご座であった。
- ヤコブ(アルファイの子)(一度)
- 熱心党のシモン(一度)
- タダイ(マタイ、マルコのみ)
- ユダ(ヤコブの子)(ルカ、使徒のみ)(一度)
- ナタナエル(ヨハネの書のみ)
- マティア(使徒のみ。ユダの入れ替え)

# パウロとルカの由来

<http://www.chrestos.com/>

## ●パウロ 174P

使徒23章で総勢470人の兵士に護送  
 総督フェリクス。ヨセフスの文献にも出  
 てこない。ギリシャの影響化にあったタ  
 ルソス出身であった。同じ時期のアポ  
 ロニウス (Apollonius Of Tyana) という  
 哲学者の人生物語を下敷きにしている。  
 BC4年に生れた。タルソスで教育を受  
 けておりエフェソスとも関係が強かった。  
 悪霊を追い出し、使者を生き返らせた。  
 220年にピラトラス philostratus によつて  
 書かれた記録。イエスの事は一切書い  
 てないし、聖書の他の書には一切でて  
 こない。

## ●ルカ P181

ルカは12使徒ではなくパウロにくつつ  
 いていた。ルカは医者で優れた癒して  
 としていられていた。Lukelはギリシャ語  
 ではLykosといい、アポロンの別称で  
 あった。アポロンも癒してとして知られ  
 ていた。



Orpheus オルフェウスはアポロンの息子である。竖琴を持って地中海地帯を旅したが、パウロの旅のコースと類似している。



# 初期クリスチャンも困惑していたミトラ教との類似性

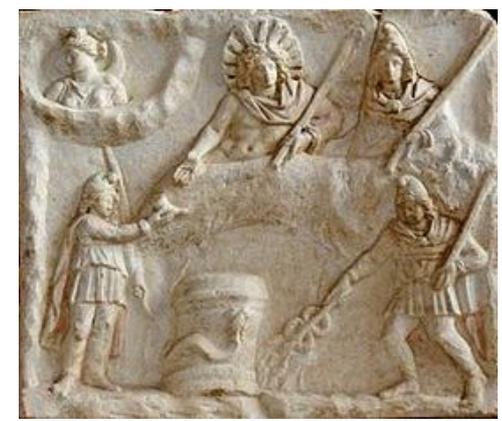
2世紀のキリスト教神学者であったユスティノスは、ミラス教のパンと杯の儀式がサタンによってキリスト教を「事前に」模倣されたものだと主張していた。ミラスの神殿には「血を流すことにより救いをもたらす」と刻印されているのも興味深い。

[http://en.wikipedia.org/wiki/Mithraic\\_mysteries](http://en.wikipedia.org/wiki/Mithraic_mysteries)

**The Christian apologist Justin Martyr wrote:**

Wherefore also the evil demons in mimicry have handed down that the same thing should be done in the Mysteries of Mithras. For that bread and a cup of water are in these mysteries set before the initiate with certain speeches you either know or can learn.[203

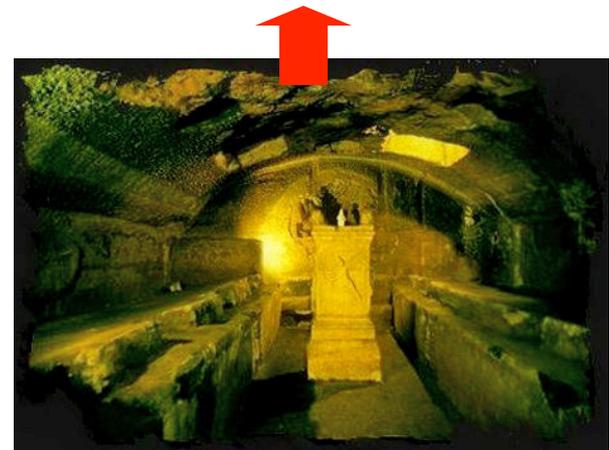
A painted text on the wall of the St. Prisca Mithraeum (c A.D. 200)<sup>[24]</sup> in Rome contains the words: *et nos servasti (?) . . . sanguine fuso (and you have saved us ... in the shed blood).*



光を掲げるミラス。ヘビも登場。

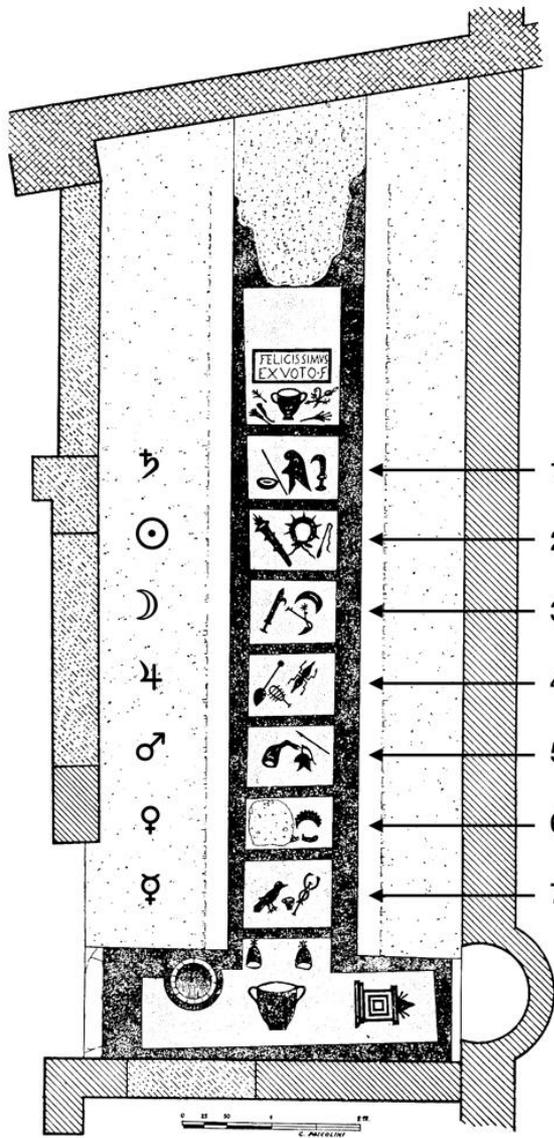


ゾロアスター教に起源を持つ。太陽神の子であり裁き主でもあり神聖な真理を有していた。



ミトラ神殿の上にバチカンが建てられている

# ミトラ教と七つの封印



古代キリスト教のモチーフとなったといわれているミトラ教の崇拜所。奥の至聖所（杯がある）にいくまでに七つのステップがある。啓示の書の七つの封印とも関係があるかもしれない。

- 1. PATER
- 2. HELIODROMUS
- 3. PERSES
- 4. LEO
- 5. MILES
- 6. NYMPHUS
- 7. CORAX

mithraeum of Felicissimus at Ostia



<http://waite2051.tripod.com/mithraeum.htm>

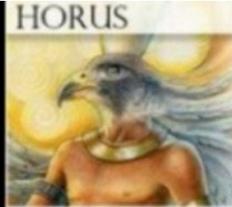
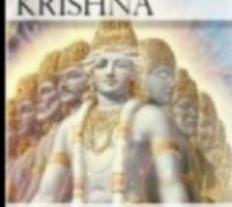
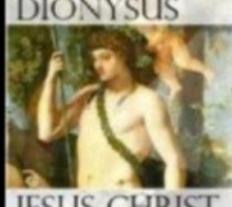
## ミトラ教で検索

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9F%E3%83%88%E3%83%A9%E6%95%99>

# 復活したのはイエスだけではない

処女から生まれて、人々を癒し、復活したという物語はイエスに始まった話ではない。

## Resurrected

 <b>HORUS</b>	<b>5,000 YEARS AGO</b> BORN OF A VIRGIN STAR IN THE EAST WALKED ON WATER HEALED THE SICK RESTORED SIGHT CRUCIFIED DEAD FOR 3 DAYS RESURRECTED
 <b>MITHRA</b>	<b>3,200 YEARS AGO</b> BORN OF A VIRGIN BORN ON DECEMBER 25 STAR IN THE EAST HAD 12 DISCIPLES PERFORMED MIRACLES DEAD FOR 3 DAYS RESURRECTED
 <b>KRISHNA</b>	<b>2,900 YEARS AGO</b> BORN OF A VIRGIN STAR IN THE EAST PERFORMED MIRACLES CALLED "SON OF GOD" SON OF A CARPENTER RESURRECTED
 <b>DIONYSUS</b>	<b>2,500 YEARS AGO</b> BORN OF A VIRGIN BORN ON DECEMBER 25 TRAVELING TEACHER TURNED WATER INTO WINE CALLED "HOLY CHILD"
 <b>JESUS CHRIST</b>	<b>2,000 YEARS AGO</b>
 ALL OF THE ABOVE	



Horus  
of Egypt  
3000 BC



Mithra  
of Persia  
1200 BC



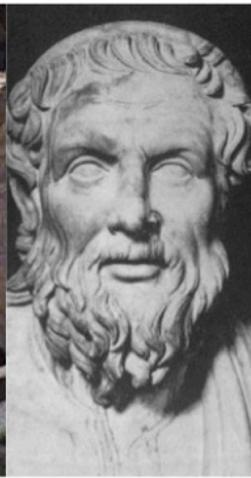
Krishna  
of India  
900 BC



Dionysus  
of Greece  
500 BC



Jesus  
of Nazareth  
33 AD



Appolonius  
of Tyana  
98 AD

農業をベースとした文化では一年の太陽の日の長さや作物のサイクルを表す「死と再生」をテーマとした神話を持っていた。

## ●シペ・トテック

アステカの農業、季節の神。この男神は、自らの皮をはいで人々に食料を与える。トウモロコシが発芽するときに種子の外層を失うことを象徴している。アステカ暦の二月、春分の頃の祭で複数の人々が生贄として選ばれた。これらの人々は人身御供を得るための戦争で捕虜になった人々である。

## ●タンムズ

シュメール神話、アッカド神話の神である。／タンムズが植物の周期の神エゼキエル8:14 そこにはタンムズ(の死)を嘆く女達座りき。

## ●イシス

エジプト神話の女神。オシリスの妹・妻。ホルスの鼻。背中に翼を持っている。永遠の処女で諸所もまま身ごもった。「星の母」とyばれている。

●オシリス イシス、ネフティス、セトの4兄弟の長男。民に麦の栽培法、パン、ワインの作り方を教えた。瀬戸に忙殺されて痛いバラバラにナイル川に名五個まえた。冥界で死者を砂漠王となる。肌が緑色なのは植物の色を象徴しているからだといわれる。

## ●ディオニューソス

ギリシア神話に登場する豊穡とブドウ酒と酩酊の神である。この名は「若いゼウス」の意味。オリュンポス十二神の一柱とされることもある。八つ裂きにされ食われてしまった て農耕神であったことを反映。

## ●アッティス

プリュギアを起源とする死と再生の神 アッティスは常緑樹である松の姿に生まれ変わった。

## ●ミスラ

イラン神話でインド神話のミトラに起源を同じくする。契約という意味。インドではアディティの生んだ十二柱の太陽神(アーディティヤ神群)の一柱。ギリシャ語ではミトラスと呼ばれ太陽神として崇められた。密儀宗教1世紀から4世紀半ばまでローマで広まった。善悪二元論と終末思想が説かれた。最大のミトラス祭儀は冬至の後で太陽の復活を祝う12月25日の祭で、キリスト教のクリスマス(降誕祭)の原型とされる。

検索ワード:

「ミトラ教」

「秘儀宗教 キリスト」

「ディオニューソス キリスト」

「オシリス キリスト」

「外典福音書」

英語の方が文献が充実している。聖書と太陽崇拝の繋がりが詳細に検証されている。

Pagan Origins Of Christianity

Sun Day worship terms

Is Jesus Zeus

Osiris-Dionysus

Dynosus Cross (画像検索)

mithras, torchbearers (画像検索)

Attis and Cybele

Castor and Pollux

Genesis Of The Grail Kings

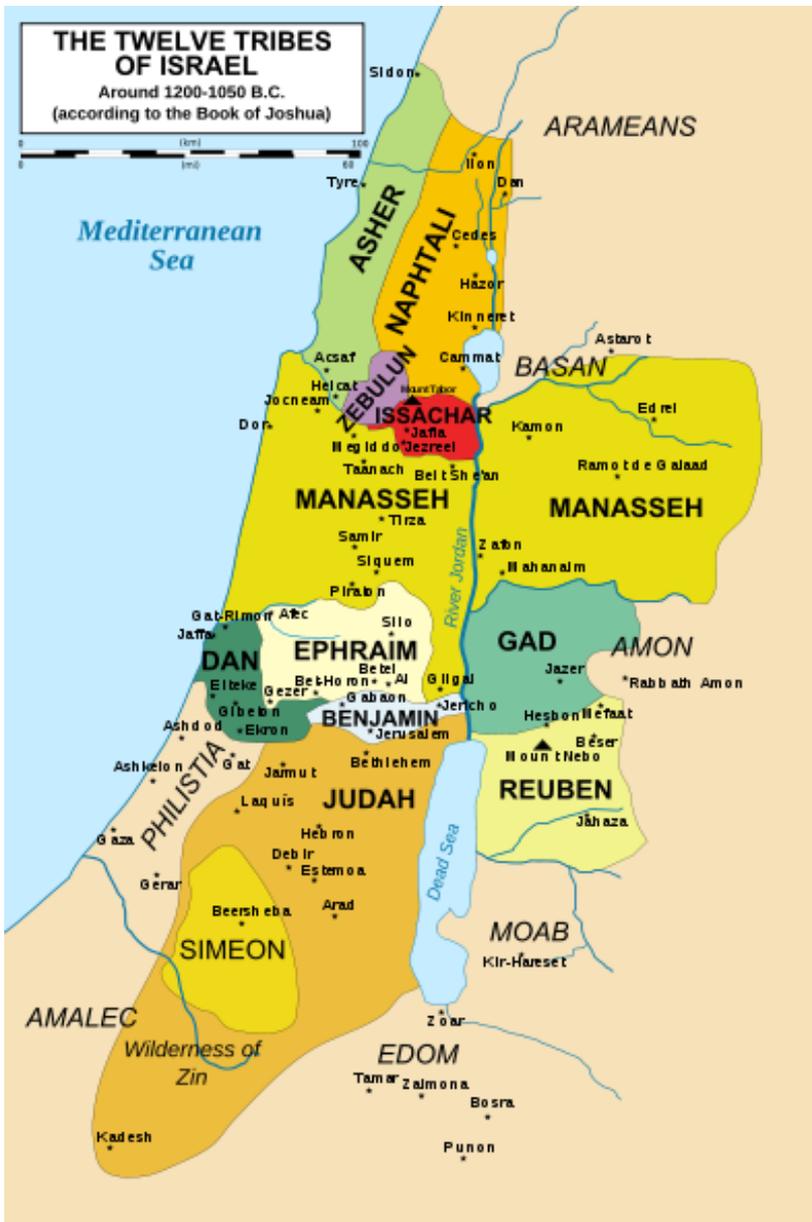
the bacchae christianity



父と子と聖霊の  
三つで一つの概念は  
エジプトから始まっている。  
原理主義者は三位一体を  
否定しているが、「三つで一つ  
のようである」という言い回しを  
しているにすぎない。



# 12と聖書



## 十二部族 創世記49章

- Reuben ルベン 大水のよう ⇒ 水瓶座
- Simeon と Levi シメオンとレビ 双子座
- Judah ユダ 獅子座
- Dan ダン 裁く ⇒ 天秤座
- Naphtali ナフタリ 雌鹿 ⇒ 射手座(狩猟の神で鹿を射る) または山羊座
- Gad ガド 襲い掛かる ⇒ 魚座 魚の神DAG反対
- Asher アシェル パンで肥えている ⇒ 乙女座(麦の神)
- Issachar イッサカル ロバと呼ぶ ⇒ 蟹座(この中の二つの星が二匹のロバとなっている)
- Zebulun ゼブルン フェニキア(シドン)への遠出海 ⇒ 牡牛座 (ギリシャ神話でEuropaはフェノキアの姫が教われた時にゼウスが牛に化けた)
- Joseph ⇒ 弓で襲われる 射手座  
Osareph ⇒ Osiris Underworld
- Manasseh マナセ ⇒ ?
- Ephraim エフライム ⇒ ?
- Benjamin ベニヤミン おおかみ座の星座の近く ⇒ さそり座

Christ Conspiracy 141

別の解釈

[http://en.wikipedia.org/wiki/Joseph\\_and\\_His\\_Brothers](http://en.wikipedia.org/wiki/Joseph_and_His_Brothers)

<http://www.llewellyn.com/journal/article/472>

# 資料－12部族と宝石

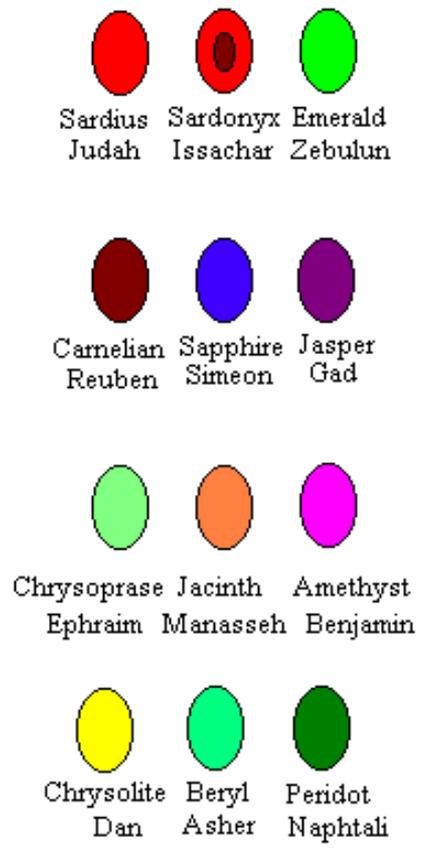
## アロンの胸当 出エジプト28章

第一列	ルビー	トパーズ	エメラルド
第二列	ざくろ石	サファイア	ジャスパー
第三列	オパール	めのう	紫水晶
第四列	藍玉	ラピス・ラズリ	碧玉

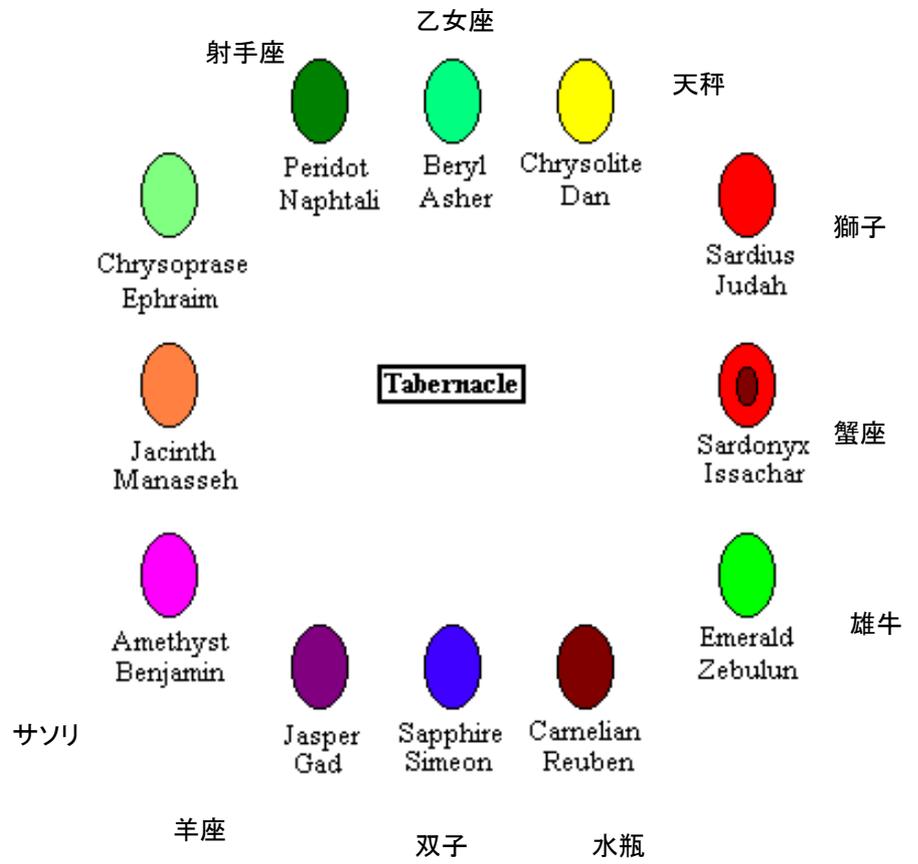
## 天の神殿 啓示21章19

第一列	碧玉	サファイア	玉髓
第二列	エメラルド	赤しめめのう	貴かんらん石
第三列	緑柱石	黄玉	緑玉髓
第四列	ヒヤシンス	紫水晶	真珠

### アロンの胸当の配置



### 12部族のテントの位置



## 十二部族

ルベン Reuben  
シメオン Simeon  
レビ Levi  
ユダ Judah  
ダン Dan  
ナフタリ Naphtali  
ガド Gad  
アシェル Asher  
イッサカル Issachar  
ゼブルgン Zebulun  
ヨセフ Joseph  
マナセ Manasseh  
エフライム Ephraim  
ベニヤミン Benjamin



## 十二使徒

ヤコブ(ゼベダイの子)  
ヨハネ(ヤコブと兄弟)  
シモン・ペテロ  
アンデレ(ペテロの兄弟)  
フィリポ  
ハルトマイ  
マタイ  
トマス  
ヤコブ  
熱心党のシモン  
イスカリオテのユダ

### 12人目は福音書により違う

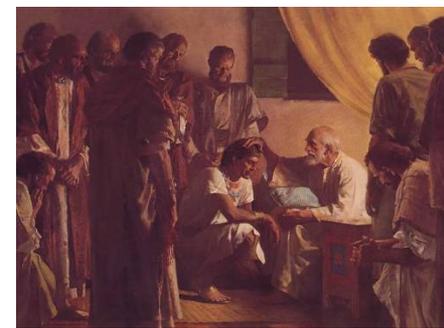
- タダイ(マタイ、マルコのみ)
- ユダ(ヤコブの子)(ルカ、使徒のみ)
- ナタナエル(ヨハネの書のみ)



## 黙示録21章 – 土台の宝石

Reuben  
Simeon  
Levi  
Judah  
Dan  
Naphtali  
Gad  
Asher  
Issachar  
Zebulun  
Joseph  
Manasseh  
Ephraim  
Benjamin

門は一方面3×4方向  
扉には十二部族の名前  
土台石には十二使徒の名前



[http://en.wikipedia.org/wiki/Joseph\\_and\\_His\\_Brothers](http://en.wikipedia.org/wiki/Joseph_and_His_Brothers)

Joseph and His Brothers (Joseph und seine Brüder) is a four-part novel by Thomas Mann,

Joseph is saved from the well and sold to Egypt, he adopts a new name, Osarseph, replacing the Yo- element with a reference to Osiris to indicate that he is now in the underworld.

The tetralogy closes with a detailed account of Jacob's famous Blessing of his sons and their tribes, his death and the funeral. The characters of the individual brothers are determined by epitheta taken from the text of the Blessing of Jacob throughout the details; thus Reuben is "turbulent as the waters" (and associated with Aquarius by Jacob). Simeon and Levi are known as the "twins" (and associated with Gemini), even though they are a year apart, and portrayed as violent bullies. Juda is a lion (Leo), and inherits Abraham's blessing since Jacob disrobes his elder brothers of their birthright. Zebulun shows predilection for Phoenicians and seafaring. Jacob calls "bony" Issachar a donkey to evoke Asellus,  $\gamma$  and  $\delta$  of Cancer. Dan is sharp-witted and "suited as a judge" (Libra). Asher is fond of dainties. Joseph is blessed by Jacob in his dual aspect of male (Dumuzi, god of seed and harvest), with reference to Taurus, and female (since for Jacob, his beloved Rachel lives on in Joseph, and in his affinity with the nourishing Earth), with reference to Virgo. As Jacob comes to Benjamin, his strength is almost gone, and with his last breath he rather incoherently compares his youngest son with a wolf, partly because of Lupus in Scorpio.

水瓶座 Aquarias  
魚座 Pisces  
牡羊座 Aries  
牡牛座 Taurus  
ふたご座 Gemini  
蟹座 Cancer  
獅子座 Leo  
乙女座 Virgo  
天秤座 Libra  
蠍座(鷲座) Scorpio  
射手座 Sagittarius  
山羊座 Capricornus

## 創世記49章のヤコブの祝福の言葉

ルベン 水のように奔放で長子の誉れを失う ⇒水瓶座

シメオンとレビ 暴力的な二人としてセットで言及されている ⇒双子座

ユダ ライオンの子供 ⇒獅子座

イサカル 骨強きロバ ⇒昔は蟹座に相当するロバ座

ダン 裁く役割 ⇒天秤座

アデエル パンで肥えるので豊穡と関係ある

ヨセフ 同じく実を結ぶ豊穡で秋にさしかかる。

ベニヤミン 年(太陽)の終わりに近づきイサクも力を失ってくる。  
オオカミと関連づけるが、さそり座の中にオオカミ座がある。

The 12 Princes of Ishmael (Gen 17:20)  
 The 12 Sons of Jacob (Gen 35:22)  
 The 12 Tribes of Israel (Gen 49:28)  
 The 12 Prophets and Kings of Israel  
 The 12 Wells of Water (Exd 15:27)  
 The 12 Pillars of the Lord (Exd 24:4)  
 The 12 Stones of the Breastplate (Exd 39:14)  
 The 12 Cakes of the Tabernacle (Lev 24:5)  
 The 12 Princes of Israel (Num 1:44)  
 The 12 Oxen of the Tabernacle (Num 7:3)  
 The 12 Chargers of Silver, Bowls of Silver and Spoons of Gold (Num 7:84)  
 The 12 Bulls, Rams, Lambs and Kids of the Offering (Num 7:87)  
 The 12 Rods of the Princes of Israel (Num 17:6)  
 The 12 Stones of Joshua (Jos 4:8)  
 The 12 Cities (Jos 18:24, 19:25, 21:7, 21:40)  
 The 12 Judges of Israel (Jdg 3, 4, 6, 10, 12, 13)  
 The 12 Pieces of the Concubine (Jdg 19:29)  
 The 12 Servants of David (2 Sa 2:15)  
 The 12 Officers of Solomon (1 Ki 4:7)  
 The 12 Lions of Solomon (1 Ki 10:20)  
 The 12 Pieces of Jeroboam 's Garment (1 Ki 11:30)  
 The 12 Stones of Elijah (1 Ki 18:31)  
 The 12 Bronze Bulls of Solomon (Jer 52:20)  
 The 12 Disciples/Apostles of Jesus (Mt 10:1-2)  
 The 12 Baskets of Bread (Mt 14:20)  
 The 12 Thrones in Heaven (Mt 19:28)  
 The 12 Legions of Angels (Mt 26:53)  
 The 12 Patriarchs of Israel (Acts 7:8)  
 The 12 Stars of the Woman 's Crown (Rev 12:1)  
 The 12 Gates, Angels and Pearls of Holy Jerusalem (Rev 21:12, 21)  
 The 12 Fruits of the Tree of Life (Rev 22:2)

The 12 Ahhazu or Demons of the Sumerians  
 The 12 Tablets/Adventures of Gilgamesh  
 The 12 Gods of Egypt  
 The 12 Divisions of the Tuat  
 The 12 Companions of Horus/Osiris  
 The 12 Olympian Gods  
 The 12 Tasks of Hercules  
 The 12 Daughters of Priam  
 The 12 Children of Amphion and Niobe  
 The 12 Daughters of Boeotia and Metope  
 The 12 Gods of the Romans and Etruscans  
 The 12 Sons of the Etruscan Mother Goddess  
 The 12 Shields of Mars  
 The 12 Altars of Janus  
 The 12 Aeons of the Gnostics  
 The 12 Devas of India  
 The 12 Names of the Indian Sun God Surya  
 The 12 Terrifying Aspects of Shiva  
 The 12 Adityas of the Indian Mother of Worlds  
 The 12 Labors of the Virgin-Born Arjuna  
 The 12 Generals of Ahura-Mazda  
 The 12 Aesir of the Norse  
 The 12 Berserkers of the Norse  
 The 12 Mountains of Ebhlenn  
 The 12 Horse-Children of Boreas  
 The 12 White Horses of the Polish Sun God  
 The 12 Stones of Cenn Cruiach  
 The 12 Rivers of the Elivagar  
 The 12 Horses and Hounds of Gwydion  
 The 12 Moons of China  
 The 12 Generals of the Japanese Divine Physician  
 The 12 Yiyantsinni of the Navaho, Pueblo, Iroquois  
 The 12 First People of the Navajo



## 探求の鍵となる資料

断片的な資料を陳列したもの。未完成・未整理のままだが、さらに調べたい方にとっては鍵となる情報になると思われるので掲載しておく。

# エホバの名前の由来

- 94ページ レビ人は牡牛座から羊座の時代に移行させたかったので、出エジプトの時にいきなり羊の地を持ち出した。  
ユダヤ人の神はエホバの前は**バール**と呼ばれていた。牡羊座でエジプト語でIAOとなり、YHWHとなった。  
IはUnity、AはAlpha、Oはオメガ。聖書のアルファでありオメガであると同じく。
- エジプトの神ラーは天の父というHuhという称号を持っていた。ここからヘブライ語のIhuhが出てきた。  
YHWHIはIEUE、IAOとも表記されたていた。
- 二列王18章ではヒゼキヤ王が宗教改革を行い、エルサレム以外での崇拝を禁じてしまう。しかもモーセの銅の蛇も破壊してしまう。これはモーセとレビ人の力を弱めさせた。**YHWHという普遍的な神々の崇拝を禁じてエルサレムに統一しようとした**。こうした抑圧的な態度が影響して、ユダヤ人はバビロニア捕囚の後にエルサレムに戻らなかったと思われる。
- 二列王二二章ではヨシヤ王が律法の書を発見する。600年(622BCE)失われていたことになる。これでは神から見てもモーセとアロンに神が詳細を与えた意味がない。本当にモーセが書いたのか？という疑問が残る。
- テトラグラマトンの文字はエジプト文字から取られている**。ユダヤ教そのものがエジプトの地から派生したものである。興味深いことに創世記ではユダヤ人は奴隷であったとしている記述と単なる外人居留者であるとしている記述がある。創世記はユダヤ民族の独立を煽るために書かれてあり、歴史的事実とは関係ない。



ヘブライ文字「He」  
にあたる大神の記号

ヘブライ語のテトラグラマトンは度々強調されるが、ギリシャ語のテトラグラマトンには言及されない。それはギリシャ語聖書の中にはもともとエホバの名前が出ていないからである。ギリシャ語聖書とヘブライ語聖書の神は繋がっていない。

ツタンカーメンの墓。ヘブライ文字の「He」(へー)と同じヒエログリフの「大神」の記号は「神の息」を意味する。(原書房「出エジプト記の秘密」)

## ●モーゼの時までエホバという名前は存在しなかった。

エロヒムELOHIMとはELの複数形である。2500回使われている。

## ●エロヒム、バール、アドナイの三つをエホバに統一する必要があった。

### ★BeneElohim

[http://creationwiki.org/Bene\\_Elohim](http://creationwiki.org/Bene_Elohim)

ラファエル、ガブリエル、ミカエル、ユリエル **神の関係にはELがついている。**

## ●ヨブ1:6に出てくる悪魔にはNenei ha-elohimという言葉があてられている。 神々の子供というの意味で、複数の神を意味している。

## ●エジプト6章二節。El Shaddai 全能の神

2 そして神はモーゼにさらに話してこう言われた。「わたしはエホバである。3 そしてわたしは、アブラハム、イサク、ヤコブに対し常に**全能の神(El Shaddai)**として現われたが、わたしの名エホバに関しては自分を彼らに知らせなかった。詩篇106:37 では子供が捧げられた悪魔が出てくるがこのヘブライ語では同じくShaddaiとなっている。

## ●ホセア2:16 ジェームズ王欽定約 わたしの所有者ではなく「バール」。

そしてその日』と、エホバはお告げになる、『あなたは[わたしを]“わたしの夫”と呼び、もはや“わたしの所有者”とは呼ばないであろう』。

## ●93ページ。BAAL BAエジプトで金星の女神とAL太陽 **バールは神そのものを指していた。**バールは「牡牛座の時代」の神の名前であった。6500年ぐらい前に始まり、牛のモチーフが多かった。

## ●イスラエル人はバールヨシュアという救世主の神も崇拝していたが、ヨシュアはイエスに相当するユダヤ語である。

## ●アドナイもAdonisの複数形でバールと同じ「主」という意味で、複数形である。

フィネキアではアドニス太陽を意味していた。

## ●サマリア文明の最初の人間はAdamu。 アダムはバビロニア語で「男」という意味で名前ではない。

## ●使徒の時代から福音書が存在していたという考えには歴史的根拠がない。

(カトリックの辞書より) Catholic Encyclopedia "Canon of the New Testament

<http://www.newadvent.org/cathen/03274a.htm>

●エルサレムの崩壊により、ユダはローマ人によって攻められた。この時に教会も占領された。つまり一般的なキリスト教視点のように真のキリスト教がその後に継続されることはなかった。

●アンテオケ antioch 使徒11章 会衆ができたところ 200年以前は福音書は知られていなかった。

●四つの福音書は初期の神父には知られていなかった。Justin Martyrが書いた二世紀のものには旧約聖書から300の引用、新約の外典からは100の引用。しかし福音書からの引用はない。マタイ、マルコ、ルカという名前すら出てこない。

●聖書のほかの書は4つの福音書に言及していない。またこの内容に関する絵や彫刻も存在していない。

●四つの福音書は最初からギリシャ語で書かれている。他の言語に訳されたのは三世紀から。

●4世紀より前の写本が存在しない。古い写本は互いに矛盾しており、325年前の写本は全て失われているか意図的に破棄されている。

●506年のニケア会議でアナスタシオス皇帝によって聖書は編集。ほかのものは破棄されている。

●皮肉なことにユダヤ人であるイエスたちの活動がユダヤ語で記されたことはなかった。

# 福音書の原型となったマルシオン

●パウロの書いた書にはピラト、サンドヘドリン、ヘロデ、ユダ、ラザロ、処女マリア、イエスの杭付けの場面、復活者に一切言及していない。イエスの山上の垂訓や祈りの言葉からも引用していない。イエスの誕生の場面や奇跡、ライ病を治したこと、に関しても触れていない。福音書でイエスは弟子に祈り方を教えたはずだが、パウロはどのように祈ったらいいかわからないといっている。

●4つの福音書は二世紀170-180年あたりに書かれたとみられる。ローマ教会の設立と時期が同じ。使徒たちはユダヤ人でイエスの言葉をユダヤ語で聞いていたはずだが、ユダヤ語の福音書は存在しない。ペテロの名前もギリシャ語のPetrosである。福音書はギリシャ語で最初から書かれている。

●ルカの書も冒頭で色々な人による叙述があると認めている。



## 福音書の原型はマルシオン福音書

●福音書で一番古いのはルカの書である。ルカは「**主の福音書**」という外典をもとにしている。最初の新約の原型はグノースティックの**マルシオン**Mrcionがまとめていた。福音書一冊とApostolicion(ポールの10冊 ガラテア、コリント1、2、テサロニア、エフェソス、コロサイ、フィレモン、フィリピ)から成り立っていた。使徒と啓示は含まれていなかった。**145年ほどにまとめられた**ものであった。福音書はルカの書より短いかんげつなもの。

●ルカはその後の**170年ごろ**に書かれている。テオフィロ(169-1770年のアンテオケの司教)に宛てて書かれてある。Theophilus-bishop of antioch。ルカが書かれたのはイエスの奇跡があつてから約二世紀たってから。

●マルシオンの福音書ではイエスはユダヤ人とされておらずベツレヘムで生れていない。ナザレ(この頃は存在していなかった)出身でなく、カペルナウムに時折きたと書いていある。時はティベリウスの治世15年と書いてあり、ルカの書はこの文章を使っている。

●マルシオンの福音書ではエホバは劣った神であると考えていた。[http://en.wikipedia.org/wiki/Marcion\\_of\\_Sinope](http://en.wikipedia.org/wiki/Marcion_of_Sinope)

●ルカ9:22。「人の子は必ず多くの苦しみに遭い、年長者・祭司長・書士たちに退けられ、かつ殺され、三日目によみがえらされるのです」

マルシオンの福音書には「人の子は必ず多くの苦しみに遭い、かつ殺され、三日目によみがえらされるのです」としか書いてない。ルカの書では「年長者・祭司長・書士たちに退けられ」が追加されている。密教の繰り返しに関して歴史的に限定するため。

- 38ページ。マルコはマルシオンのラテン語を使っている。ルカとマタイはギリシャ語を使っている。マルコはパレスチナのユダヤ人でなかったため、地理にも詳しくなかった。次の聖句は地理を正しく表現していないとして批判の対象になっている。<http://www.errantskeptics.org/Marks-Geography-Mark-7.htm>  
マルコ7:31 [イエス]はティルス地方から戻り、シドンを経て、デカポリス地方の真ん中を通してガリラヤの海に行かれた
- ヨハネの書はローマでのハイアーキー(威厳)を確立するため。他の著者が知らなかった街名を列挙している。  
ヨハネ3:23サリムに近いアイノン(ユダ)。  
ヨハネ1:28 ヨルダンの向こうのベタニヤ。  
ヨハネ4:5サマリアのスカル。
- ヨハネ12:21ガリラヤのベツサイダ  
ガリラヤにそんな街はなく、Tiberiasティベリア(ヘブライ語でガリラヤ)の東側にあった。ガリラヤは西側であった。
- マタイ16:17-19ペテロの岩の上に教会を立てるといった。  
これはマルコにもルカにも書いてないので、教会が書き足した。(ルカとマルコの方がマタイより前に書かれている)

---

## 福音書で食い違うイエス誕生の時代

- ⇒マタイの書ではヘロデの死の二年前にイエスが生れている。ヘロデはイエスの命を狙っている。
  - ⇒ルカではイエスは狙われていない。カエサル・アウグスツスAugustusの登録の時に生れている。  
ヘロデの死から10年たっている(ヘロデの死は西暦前4年であった。登録はCensus of Quirinius西暦6年)。
  - ⇒マルコは生れた時の話を無視している。
- 
- ルカ3章 1 ティベリウス・カエサルの治世の第十五年(28-29年), ポンテオ・ピラトがユダヤの総督(26-36年), ヘロデがガリラヤの地域支配者, 一方その兄弟フィリポがイツリアおよびテラコニテ地方の地域支配者, そしてLysanias **ルサニアがアビレネの地域支配者(西暦前40年で前36年に処刑されている=イエス誕生の30年前)であった時**。時代設定に矛盾がある。
- 
- 「祭司長アナス, およびカヤファの時代に」とあるが、アナス(6-15年)カヤファ(18-36年)が同時に祭司であったことはない。

## Gospel(福音書)の語源は「God's spell(魔法の言葉)」の意味で歴史書ではなかった。

- マタイの書 イエスがベツレヘムのどこで生れたかは書いてない。
- マタイ2:15 エジプトからわたしは自分の子呼び出した ⇒ホセア11:1(別にイエスのことではない)
- マタイ2:23 彼はナザレ人と呼ばれるであろう ⇒そんな予言は存在しない
- マタイ2:18 「ラマで声が聞こえた。泣き悲しみと激しいどうこくが。ラケルがその子供たちのために泣き悲しむのであり、彼女は慰めてもらおうとはしなかった。彼らがもういないからである」。⇒エレミヤ31:15(強引な結びつけ)
- イエスが大人になってベツレハムに戻るとあまり有名でない。誕生の奇跡とヘロデの幼児殺戮の形跡がない。赤ちゃんの時に大きなイベントがあったにもかかわらず、家族でさえも彼の奇跡を観ていながら拒否する。
- 三人の賢人は星を追っていたのになぜわざわざヘロデのところ立ち寄ったのか？ なぜヘロデも星を追ってすぐに殺さなかったのか？ 幼児殺戮は歴史家ヨセフスの記述にもでてこない。
- マタイ、マルコ、ルカではユダから外れたガリラヤが舞台で最後にエルサレムが出てくる。  
ヨハネではエルサレムとユダがメイン舞台。福音書が書かれた時代の差を表している。
- ユダヤ人の祭で犯罪人を放免する習慣はなかった。
- 当時、自称メシヤは沢山いたが、「冒涇の罪」で杭につけられたものはいなかった。
- ピラト(23-36年)クレニオquirinius(12年までユダ統治) ⇒イエスの時代にはいなかった。
- イエスはイスラエルだけのために来たといいながら全ての国に伝道しろといった。
- 現在知られている同時代の40名ほどの歴史家の文献に一切イエスや弟子の話が出てこない。  
ヨセフスの本にはパウロも弟子も出てこない。バプテストのヨハネとイエスとヤコブの名前が出てくるぐらい。  
しかしこの記述ですら後に改ざんされて足されたとされている。

## 4世紀にバチカンが輪廻転生の教理と外典を削除したが、聖書の中にも断片が残っている。

ペテロ第一 3:18

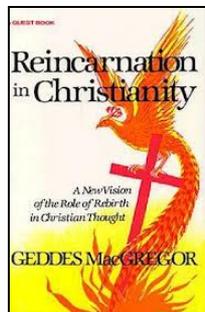
キリストでさえ罪に関して一度かぎり死なれました。義なる方が不義の者たちのためにです。それはあなた方を神に導くためでした。彼は肉において死に渡され、霊において生かされたのです。19 この[状態]でまた、彼は獄(ハデス)にある霊たちのもとに行き行って宣べ伝えました。20 それは、かつてノアの日に神が辛抱して待っておられた時に不従順であった者たちであり、その間に箱船が建造され、その中にあって少数の人々、つまり八つの魂が無事に水を切り抜けました。

コリント第一 15章

35 しかしながら、「死人はどのようによみがえらされるのか。いったいどんな体でやって来るのか」と言う人がいることでしょう。36 道理をわきまえない人よ！ あなたのまくものは、まず死ななければ、生きたものになりません。37 そして、あなたがまくものについて言えば、後にできる体ではなく、ただの種粒をまくのです。それは小麦、あるいはほかの何かでしょう。38 しかし神は、ご自分の喜びとなるおりにそれに体を与え、種の一つ一つにそれ自身の体を[与え]られます。39 すべての肉が同じ肉ではなく、人間の[肉]があり、また畜類の肉があり、また鳥の肉があり、また魚の[肉]があります。40 そして、天的な体と地的な体があります。しかし、天的な体の栄光は一つの種類であり、地的な体の[栄光]は別の種類です。41 太陽の栄光は一つの種類であり、月の栄光はまた別であり、星の栄光はまた別です。事実、星は他の星と栄光の点で異なります。

42 死人の復活についてもこれと同じです。朽ちる様でまかれ、朽ちない様でよみがえらされます。43 不名誉のうちにまかれ、栄光のうちによみがえらされます。弱さのうちにまかれ、力のうちによみがえらされます。44 物質の体でまかれ、霊的な体でよみがえらされま~~す~~。物質の体があるなら、霊的な[体]もあります。45 まさにそう書かれています。「最初の人アダムは生きた魂になった」。最後のアダムは命を与える霊になったのです。46 とはいえ、最初のもは霊的なものではなく、物質のものであり、後に霊的なものとなります。47 最初の人~~は~~地から出て塵で造られており、第二の人は天から出ています。48 塵で造られた者たちは塵で造られた者のようであり、天的な者たちは天的な者のようです。49 そして、わたしたちは、塵で造られた者の像を帯びてきたように、また天的な者の像を帯びるのです。

50 また、兄弟たち、わたしはこのことを言います。肉と血は神の王国を受け継ぐことができず、朽ちるものが朽ちないものを受け継ぐことはありません。51 ご覧なさい、わたしはあなた方に神聖な奥義を告げます。わたしたちはみな[死の]眠りにつくではありませんが、わたしたちはみな変えられるのです。52 一瞬に、またたくまに、最後のラツパの間にです。ラツパが鳴ると、死人は朽ちないものによみがえらされ、わたしたちは変えられるからです



JW解約資料6『原理主義の限界』を参照

<http://reluctant-messenger.com/origen1.html>

## 地上への復活はありえない

■コリント第一15:36-53 36 道理をわきまえない人よ！あなたのまくものは、まず死ななければ、生きたものになりません。...50 また、兄弟たち、わたしはこのことを言います。肉と血は神の王国を受け継ぐことができず、朽ちるものが朽ちないものを受け継ぐことはありません。51 ご覧なさい、わたしはあなた方に神聖な奥義を告げます。わたしたちはみな[死の]眠りにつくのではありませんが、わたしたちはみな変えられるのです。52 一瞬に、またたくまに、最後のラツパの間にです。ラツパが鳴ると、死人は朽ちないものによみがえらされ、わたしたちは変えられるからです。

■フィリピ3:20 しかしわたしたちについて言えば、わたしたちの市民権は天にあり、わたしたちはまた、そこから救い主、主イエス・キリスト[が来られるの]を切に待っています。21 彼はその持つ力、すなわち一切のものをご自分に服させるほどの[力]の働きにより、わたしたちの辱められた体を作り替えて、ご自分の栄光ある体にかなうものとしてくださるのです。

■コリント第二 5:5 というのは、わたしたちは、たとえ自分の地的な家、つまりこの天幕が分解するとしても、神からの建物、手で作ったものではなく、天にあって永遠に続く家を持つことになっているのを知っているからです。

## 魂は消えずに天に帰る

■伝道3:19-21 <sup>20</sup> 皆一つの場所へ行く。それはみな塵から出たものであって、みな塵に帰ってゆく。<sup>21</sup> 人間の子らの霊は上に上って行くのか、また獣の霊は地に下って行くのか、一体だれがこれを知っているであろうか。

■伝道12:7 そのとき、塵はかつてそうであったように地に帰り、霊もこれをお与えになった[まことの]神のもとに帰る。

## イエスも否定しなかったエリヤの転生説

■マタイ17:12-13 エリヤはすでに来たのですが、人々はそれを見分けず、自分たちの望むことを彼に対して行なったのです。このように、人の子も彼らの手で苦しみを受けるように定められているのです。<sup>13</sup> このとき弟子たちは、[イエス]がバプテストのヨハネについて話されたのだということに気づいた。

## ●ユーセビウス eusebius(263-339年頃)

パレスチナのカエサルの司教 クリスチャンがあまり知られていないといっている。  
しかし聖書では世界中に広まったと書いている。

## ●Justin Martyr(100-165) ジャスティン・マーター

異教徒の神話とイエスの神話が似ていたので説明をするのに苦労していた。サタンが事前にしこんだと結論づけた。

## ●ラクタンティウスLactantius (240-330)

コンスタンティンにキリストの教えは既存の宗教の神話と同じであるので大丈夫だと提言している。

## ●Clement of Alexandria アレクサンドリアのクレメンス(150-215)

初期キリスト教を代表する神学者の一人 グノーシス派であったといわれる。クレメンスの思想の特徴は、ギリシア哲学と文学がキリスト教へ人々を導くために存在したと考え、その思想的な遺産をキリスト教へ継承しようとしたことにある。これはプラトンとギリシア思想に精通したクレメンスならではの発想であり、特にロゴス＝キリストであるとした「ロゴス・キリスト論」は、ギリシア思想とキリスト教神学を結びつけ、以降のキリスト教神学の発展に大きな貢献をするものとなった。

## ●オリゲネスOrigenes Adamantius, 182年? - 251年 クレメンスと同じアレク

サンドリア学派 グノーシス。全てのものは完全に救われる。魂の存在を信じていた。  
死んでから300年後に異端宣告を受ける。つまり教会の方が教義を途中で変更した。

## ●アレクサンドリアがくは【アレクサンドリア学派】

(1)前3世紀から前2世紀前半にかけての、エジプトのアレクサンドリアの図書館を中心とする文献学上の学統。エフェソスのゼノドトス、ロドスのアポロニオス、サモトラケのアリスタルコスらにより、主としてホメロスの作品の校訂編纂や古典諸文献の収集を行った。

(2)180年ころ、パンタイノスによりアレクサンドリアに設立された一種の私塾(アレクサンドリア教校)に形成された学派。この教校はアレクサンドリアのクレメンス、オリゲネスへと継承され、新入信者へのキリスト教教理の問答による教授が行われた。

## ●Augustine セントオーガスティン

●Bishop Irenaeus(130-202)リヨンの司教、反異端の作家。リヨンの教会には星座があった。

●初期の司教は12星座と12使途を結び付けていた。他の神話のホルス、ヘラクレスも12人の弟子がいた。

<http://www.booktalk.org/post96429.html>

# グノーシス派とは？

## グノーシス派を調べると初期クリスチャンの思想が分かる。



- バプテストのヨハネはエッセネ派とされている(出版物にもそうある)が、グノーシス派に属するものであった。
- グノーシスとはゾロアスター教とユダヤ教を混ぜたもの。プラトンの哲学からカバラ、密教も混ぜていた。仏教の影響もあった。イエスの教えには仏教の教えも混ざっていたというのはここに理由がある。
- パウロの言葉はグノーシスの影響を受けている。
- 当時アンテオケではサマリアのシモンというグノーシス派がはばをきかせていた。使徒8:9の魔術のシモンはグノーシスであった。当初からグノーシス派とn対立があった。
- グノーシス1世紀にはすでに存在していたが220年頃に政治的に負けて教会に吸収された。
- 原理主義者の考えでは原始キリスト教のあとにグノーシスという背教が始まったと考える。しかし実際にはグノーシスが先にあり、それをもとにキリスト教が固まっていった。

### グノーシス派とは？

グノーシス(Gnosis)の意味は、ギリシャ語で「知」あるいは「認識」を意味する。このグノーシス派は、初期キリスト教の異端なのだろうか？ いや、もともとグノーシス主義とでも言うべき思想があって、これがキリスト教を取り込んだと言ったほうが正確であろう。ともあれ、原始キリスト教にあってローマ教会にとっては、このグノーシス派は、大変な脅威だった。それは、当時の教会指導者達の書き残したのを見てもあきらかである。実際、一時期グノーシス派は大勢力となり、数の上でローマ教会派を上回っていたこともある。また、聖人として列聖されているギリシャ教父の中には、グノーシス派の指導者と目される者も居る。

さて、グノーシス派とはいかなる宗教、思想なのか？もちろん様々な諸派があり、その思想は一概には言えない。だが、新プラトン主義にも通じた流出的宇宙論(アイオン界、中間界、物質界)を持つこと、霊肉一体の思想を持つこと、自己救済による神との合一を唱えること、などが共通の特徴と言えよう。そして、「物質」を墮落の結果と考え、「物質」より構成される「肉体」を、「靈魂」の牢獄と考えるのも特徴だろう。また、善悪二元論を唱えるのも大きな特徴だ。彼らにとって「悪」とは、「善の欠如した状態」ではなく、一つの恐るべき存在として取らえている。ただし、この「悪」は、「善」に打ち勝つことは絶対に出来ない。

また、「聖書」における「旧約の神」と「新約の神」を区別するのも特徴だろう。実際、恐ろしい「旧約の神」とイエスの説く愛に満ちた「新約の神」は、あまりに違いすぎ、聖書を読む者を悩ませて来たが、グノーシスはそれに単純明快な答えを出したのだ。「旧約の神」と「新約の神」は別人である、と。「物質は墮落の結果で「肉体は靈魂の牢獄」と考える彼らにとって、物質の塊りの世界を7日もかけて創造し、土くれからアダムとイブを作った「旧約の神」は、実は「神」ではなく、墮落した強大な天使の一人と考える。彼らは、これをデミウルゴスと呼び、アイオンの善の光をさえぎる「悪」とであるとさえ言う。また、イエスも肉体をまとった存在としてではなく、霊的な存在としてとらえた。

<http://www5e.biglobe.ne.jp/~occultyo/gnouisu/nanika.htm>

# 外典の位置づけ

死海で発見された巻物にはグノーシス派の影響を受けている外典が含まれていた。死海文書が聖書にとって重要な巻物であれば外典も無視できなくなってしまう。外典は異教・背教であるとして聖書から除かれている。しかし実際には逆で、外典の方が聖典より古い教えであった。ただしそれはユダヤ人の思想を反映していたので、ローマ人であるバチカンはそれらを異端扱いして破門したにすぎない。

キリスト教の視点で、聖書の後に腐敗により外典 Apocrypha（聖典でない、秘密の）が出てきたと考え、キリスト教の背教が速すぎる。なぜなら聖典と同時に外典が存在していたからだ。それでは神はイエスの教えを保護することができなかったことになる。しかし古代宗教の教えをもとに外典が書かれて、それが聖書に発展したとみるとつじつまが合う。

外典は輪廻転生なども含んでいるが、それはキリスト教に追加された背教要素ではない。むしろキリスト教があとにやってきて、もともとの古代密教に対して背教した結果、輪廻転生が削除された。ユダヤ教はエジプトの宗教に対して背教した結果生まれて、原始キリスト教はユダヤ教に対して背教して生まれ、現在のキリスト教はグノーシス原始キリスト教が腐敗した結果生まれた。新しい宗教(カルト)の興りを『進展』と見るか『背教』と見るかは誰の立ち位置かによる。



# 宗教は形を変えて継承されていく



古代密教



古代密教をもとに  
キリスト神話の原型が...



グノーシス派



## バチカンの政治力

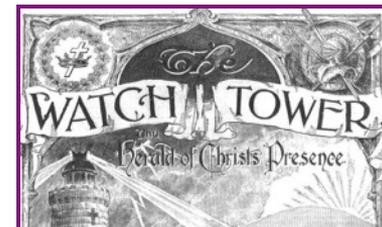


ローマ政治に都合の  
良いように改ざん

## 聖典編纂



原理主義



キリスト教はユダヤ教が突然変異を起こして突然現れたわけではない。同じくユダヤ教も突然根っこもなしに現れた宗教ではない。人類の歴史は全て繋がっており、それより前の遺産を継承している。ただし何が継承されるかどうかは当時の政治情勢によって大きく左右される。

古代密教から引き継がれたグノーシス派、ユダヤ人思想(イエスの弟子の福音書)は当時のバチカンに対し政治的に負けてしまった。結果的に異端というレッテルを貼られて外典扱いになる。一方ローマ人を主体(パウロ)とした聖典は改ざんを重ねて現代の聖書となる。16世紀にマーティン・ルターはバチカンが創作した聖書を真のキリスト教であると勘違いし、原理主義の宗教革命を起こす。

バチカンが創った神話をもとにして、バチカンが汚した教えを取り除こうという考えは人類最大の矛盾といってもいいだろう。



## 異端扱い

トマスの書など  
ユダヤ人系統の  
福音書は外典扱い



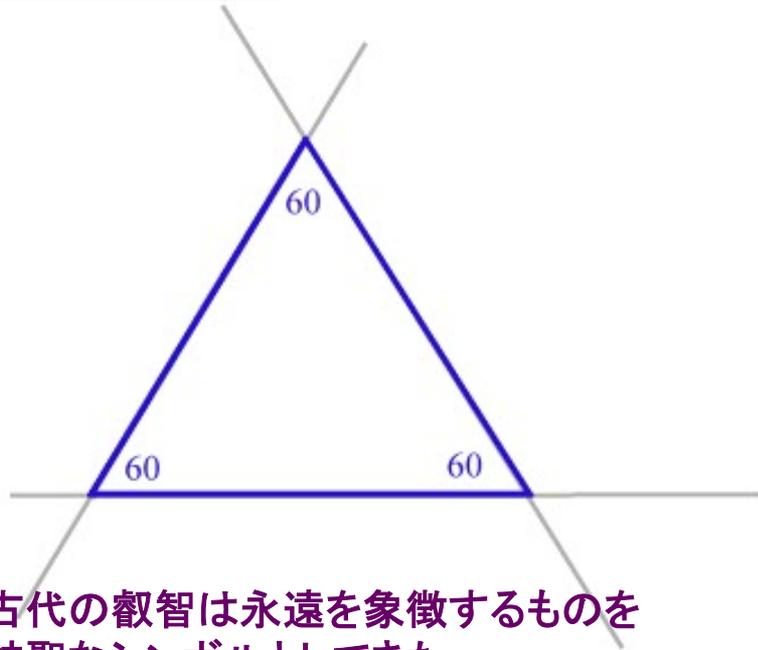
# 古代からの叡智

■死と再生のテーマ（自然現象全てに共通するサイクル）

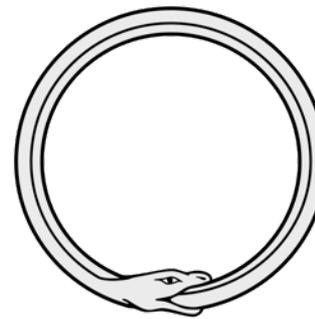
神聖なシンボル：

- 二元性（陰と陽）
- 永遠（サイクル）
- フラクタル（幾何学）
- 黄金率

# 666の本当の意味



古代の叡智は永遠を象徴するものを神聖なシンボルとしてきた。正三角形は同じ角度を永遠に繰り返すため666は神聖な数字とされてきた。

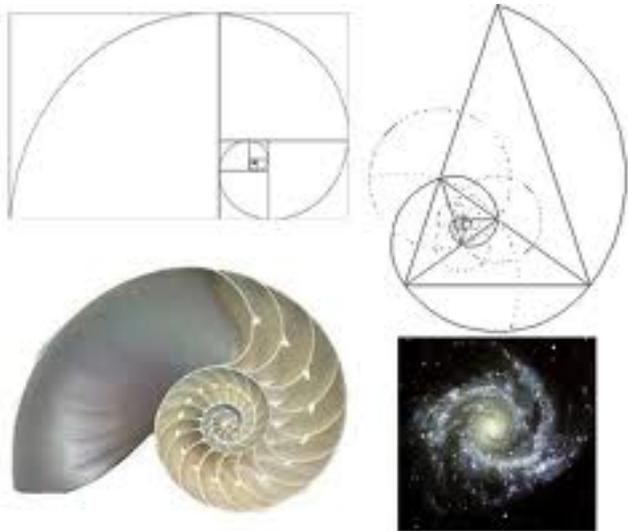


聖書は自分たちがそれ以前からの古代の叡智を引き継いでいる。しかし新興宗教としてそれ以前の宗教を否定していった。ベンチャーが大手企業を批判するのと同じ原理である。しかし**聖書そのものは古代宗教の占星術・魔術と神話を下地に形成されてきた**。その事実を隠すために聖書を改竄して古代からの叡智に対して異教徒というレッテルをはって来た。

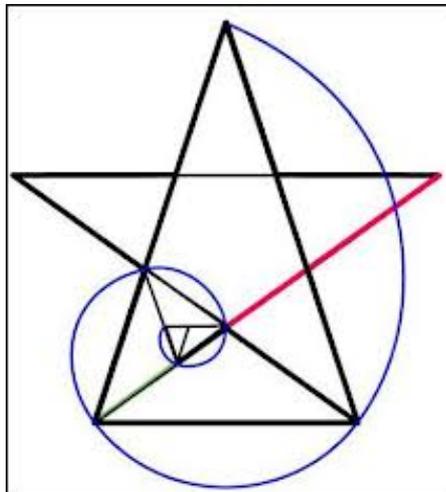
同時に靈感を受けた霊能者が聖書を書いたにも関わらず、霊能力を否定する聖句を意図的に挿入してきた。同じ要領で古代から引き継がれてきた太陽崇拝を断罪しているが、実際にはイエスなどの神話は太陽をもとにしている。そして神聖な数字である666も悪魔の数字ということにしてしまった。しかし666は永遠を表す黄金率である。



# ダビデの星は陰陽のシンボルである



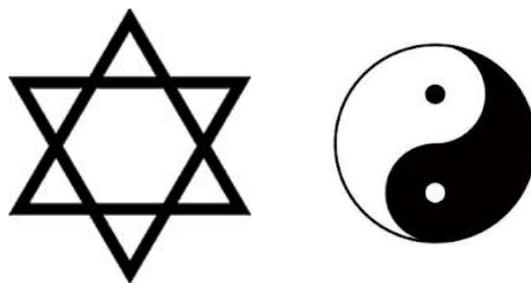
自然界の法則を表す黄金率



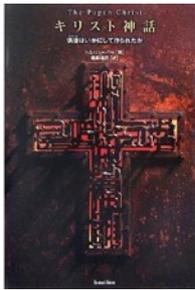
五芒星は黄金率から出来ている神聖なシンボル。



キリスト教はこのシンボルをひっくり返して悪魔の象徴とした。



ダビデの星である六芒星は陰陽の二元性を表す神聖なシンボル。上向きの三角形は男性性(陽)で、下向きの三角形は女性(陰)となっている。ホワイトハウスのドームは女性性で、正面に建っているオベリスク(高さは黄金率の555フィート)は男性性のシンボルである。

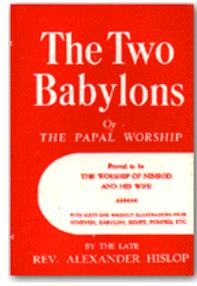
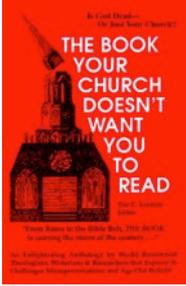
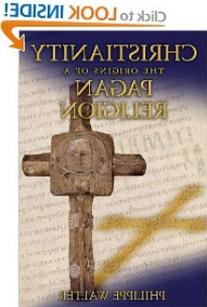
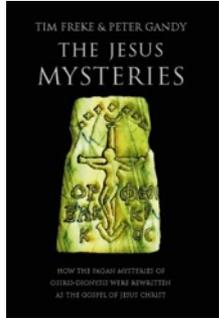
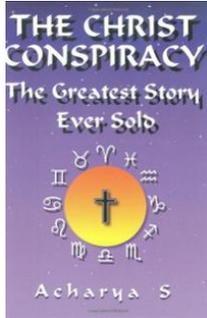


- キリスト神話 トム・ハーパー
- 禁じられた福音書—ナグ・ハマディ文書の解明 エレーヌ ペイゲルス
- 古代秘教の本—太古神話に隠された謎の秘儀と宗教 (New sight mook—Books esoterica) [ムック]
- キリスト教の本 (上) (New sight mook—Books esoterica) [ムック]



このテーマに関しては英語の文献の方が圧倒的に多い。他にも聖書がどのように編成・歪曲されていったか、外典に関する研究、グノーシスに関する本が数多くある。

- The Christ Conspiracy: The Greatest Story Ever Sold by Acharya S
- The Jesus Mysteries by Timothy Freke ‘ Peter Gandy
- Christianity The Origins Of a Pagan Religion by Phillippe Walter
- The Book Your Church Doesn't Want You To Read by Tim C. Leedom



●The Two Babylons by Alexander Bishop  
この本は興味深いのだが、熱心な原理主義の神父によって書かれている。カトリックがいかに異教徒のものを取り入れたかを解き明かそうとして証拠を集めている。しかし視点を180度変えてみると、いかに異教徒の宗教をベースにキリスト教が築き上げられていったかが分かる。キリスト教を取り入れたのは異教宗教の方であるといえるだろう。